# 白馬村総合戦略

令和元年6月改訂

白馬村

《目　次》


第１　人口ビジョン

１　はじめに----------1

（１）人口ビジョンの位置づけ----------1

（２）人口ビジョンの対象期間----------1

２　人口の現状分析と将来推計----------1

（１）人口の動向分析----------1

ア 総人口の推移と将来推計----------1

イ 年齢３区分別人口の推移と将来推計----------2

ウ 出生、死亡、転入及び転出数の推移----------3

エ 合計特殊出生率の推移----------4

オ 出生数の推移----------4

カ 自然増減と社会増減の影響----------5

キ 年齢階級別人口の社会増減移動数----------6

ク 大北圏域における人口移動----------7

ケ 年齢階級・男女別の人口構成----------8

コ 産業別就業者数----------10

サ 年齢階級別産業人口----------11

（２）将来人口推計と分析----------12

ア 将来人口推計----------12

イ 将来人口に及ぼす自然増減・社会増減の影響度の分析----------14

ウ 人口減少段階の分析----------15

エ 老年人口比率の変化----------16

３　人口の将来展望----------17

（１）将来展望に必要な調査・分析----------17

（２）目指すべき将来の方向----------29

（３）人口の将来展望----------29

## 第２　総合戦略


１　基本的な考え方----------30

（１）総合戦略策定の目的----------30

（２）総合戦略の位置づけ----------30

（３）計画期間----------30

（４）総合計画と総合戦略の関係----------30

（５）計画期間の目標人口----------31

（６）ＰＤＣＡサイクルの確立----------31

２　基本方針----------31

３　基本目標----------32

４　施策の展開----------33

基本目標１　地域の資源と人を活かした「しごと」を創出する

（１）競争力のある産業の振興と雇用の創出----------33

基本施策１　白馬産農産物のブランド化

基本施策２　新たな創業支援と空き店舗の活用支援

基本施策３　クリーンエネルギー・自然エネルギーの利活用

（２）地域の特色を活かした観光振興の推進----------34

基本施策４　グリーンシーズンの観光振興

基本施策５　道の駅の建設と地域経済循環システムの構築

基本施策６　観光業の体力強化に向けた計画の推進

（３）医療従事者の確保と人材育成----------35

基本施策７　看護師と介護職員等の安定雇用

基本目標２　白馬村への新しい「ひと」の流れをつくる

（１）Ｕ・Ｉ・Ｊターンの促進----------36

基本施策１　魅力ある白馬への移住・定住支援

（２）地域資源を活かした教育の推進----------36

基本施策２　地域高校である白馬高校の魅力化

基本施策３　外国人の児童・生徒に対応した教育環境の整備

基本施策４　都市部からの児童・生徒の受け入れ

基本目標３　若い世代の結婚・出産・子育ての「きぼう」をかなえる

（１）結婚・出産・子育てへの切れ目のない支援体制----------38
基本施策１　安心・安全な妊娠・出産への支援
基本施策２　子育てへの安心サポート
基本施策３　結婚サポート事業
（２）特色ある学校教育の充実----------39
基本施策４　ＩＣＴを活用した教育の推進
**基本目標４　将来にわたって住み続けたい魅力ある「まち」をつくる**
（１）安心・安全なくらしの確立----------40
基本施策１　地域包括ケアシステムの構築
基本施策２　健康づくり支援
基本施策３　小集落への集落支援委員の配置
基本施策４　安心な生活を守る買い物支援
基本施策５　汎用防災アプリケーションのシステム構築による防災対策
（２）広域連携の推進----------42
基本施策６　図書館建設による情報発信と広域連携
基本施策７　ごみ処理の広域化とごみの減量化
基本施策８　新たな広域連携による地域力の向上と経済・生活圏の形

## 第１　人口ビジョン

### １　はじめに

#### （１）人口ビジョンの位置づけ

白馬村人口ビジョンは、本村における人口の現状を分析し、人口に関する村民の認識を共有したうえで、今後目指すべき将来の方向性と人口の将来展望を提示するものです。

#### （２）人口ビジョンの対象期間

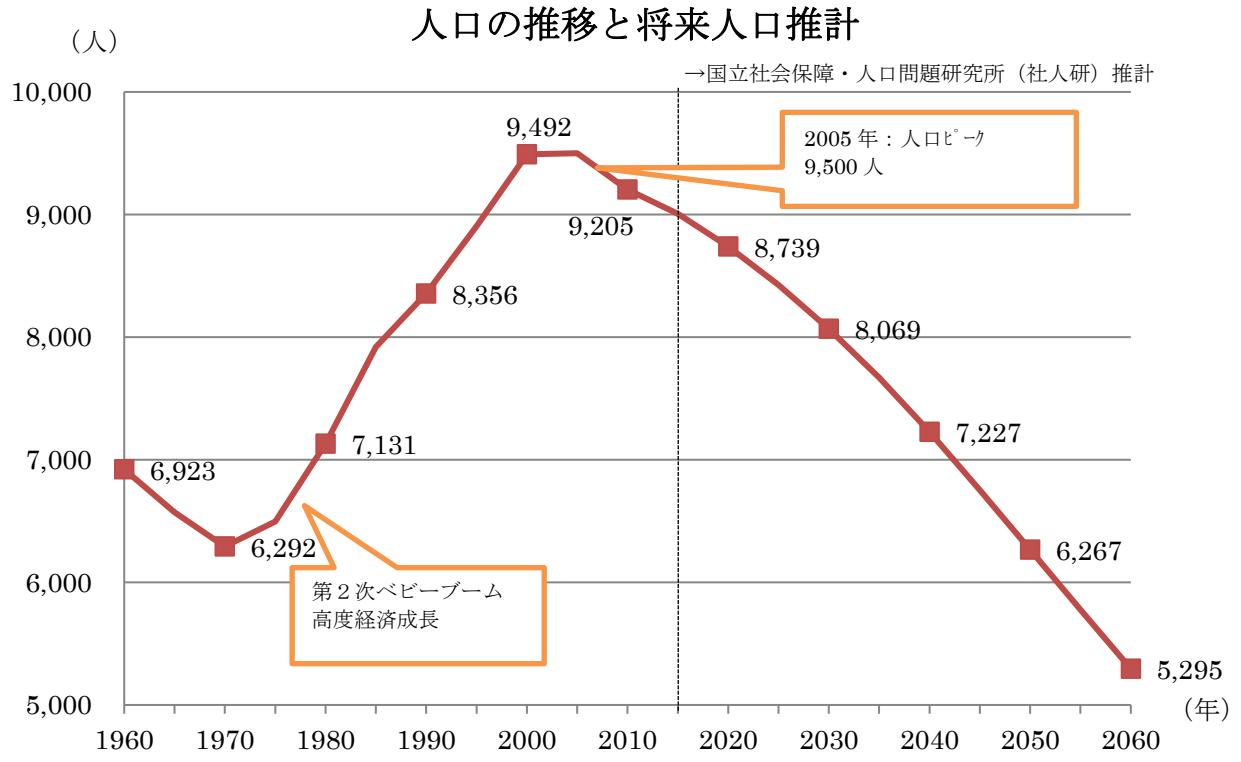
白馬村人口ビジョンの対象期間は、国の長期ビジョンを踏まえ、2060（平成 72）年までとし、長期的な視野に基づいた展望を示します。

### ２　人口の現状分析と将来推計

#### （１）人口の動向分析

ア　総人口の推移と将来推計

1960 年から 1970 年にかけて人口の減少が見られましたが、1970 年以降の人口は増加しています。その後、2005 年の 9,500 人をピークに人口の減少が始まり、2050 年には、1970 年の水準まで落ち込むことが予想され、2060 年には、現在より４割程度人口が減少し 5,295 人と推計されます。




出典：国勢調査

イ　年齢３区分別人口の推移と将来推計

①年少人口

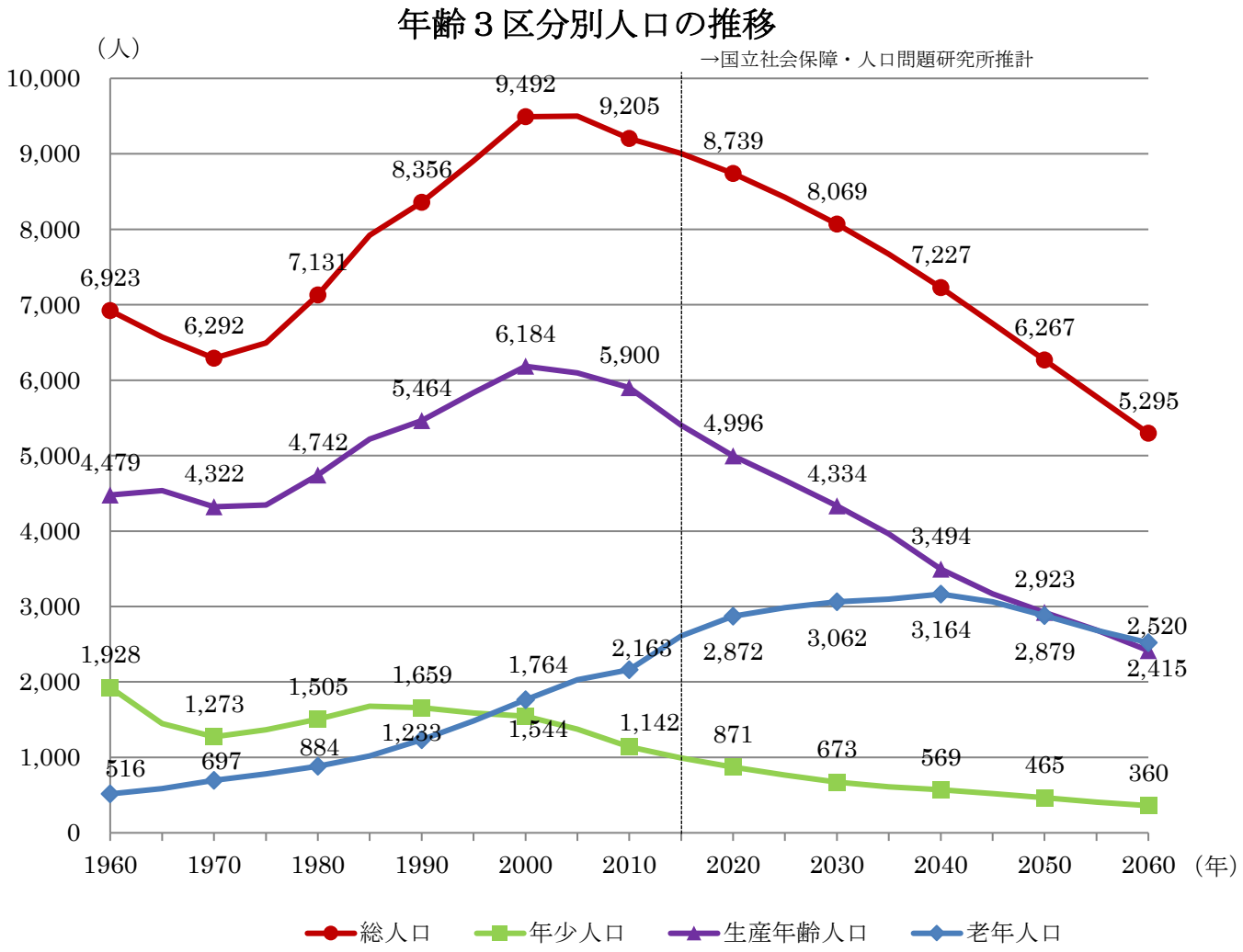
総人口の減少ペースは比較的緩やかと推計していますが、年少人口の減少スピードは県平均より速いことから、高齢化率の上昇圧力が比較的強いことが予想されます。

②生産年齢人口

総人口のグラフと、ほぼ同じ曲線を描き推移し、2000 年の 6,184 人をピークに減少局面を迎えます。

③老年人口

全国有数の観光資源を有し知名度の高い本村は、域外からの移住人口に支えられ、2040 年までは上昇ペースが続いていますが、総人口が減少していることを踏まえれば高齢化率が加速度的に上昇することが危惧されます。



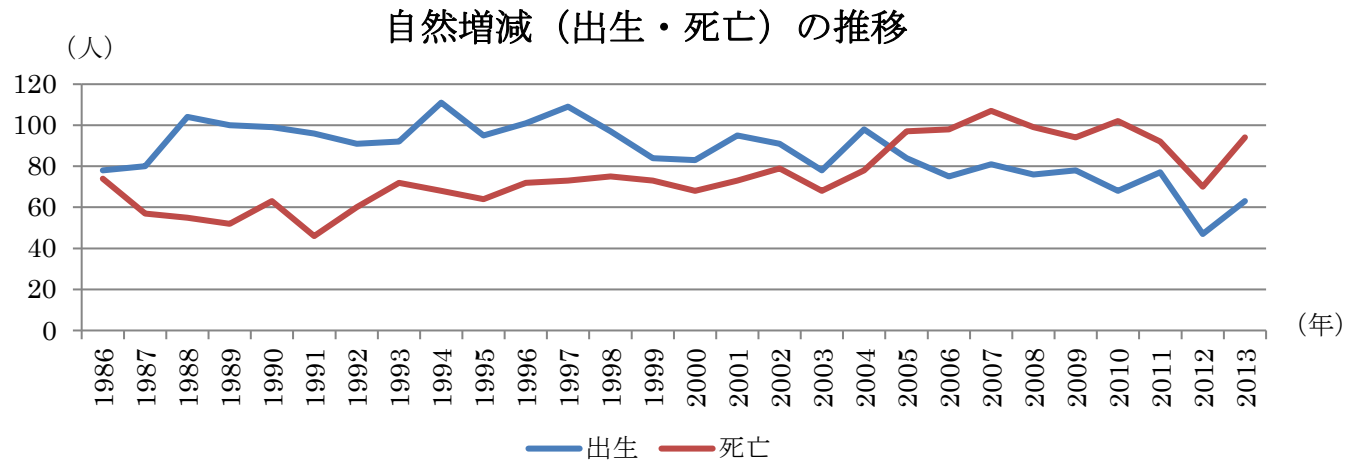

出典：国勢調査、社人研推計

ウ　出生、死亡、転入及び転出数の推移

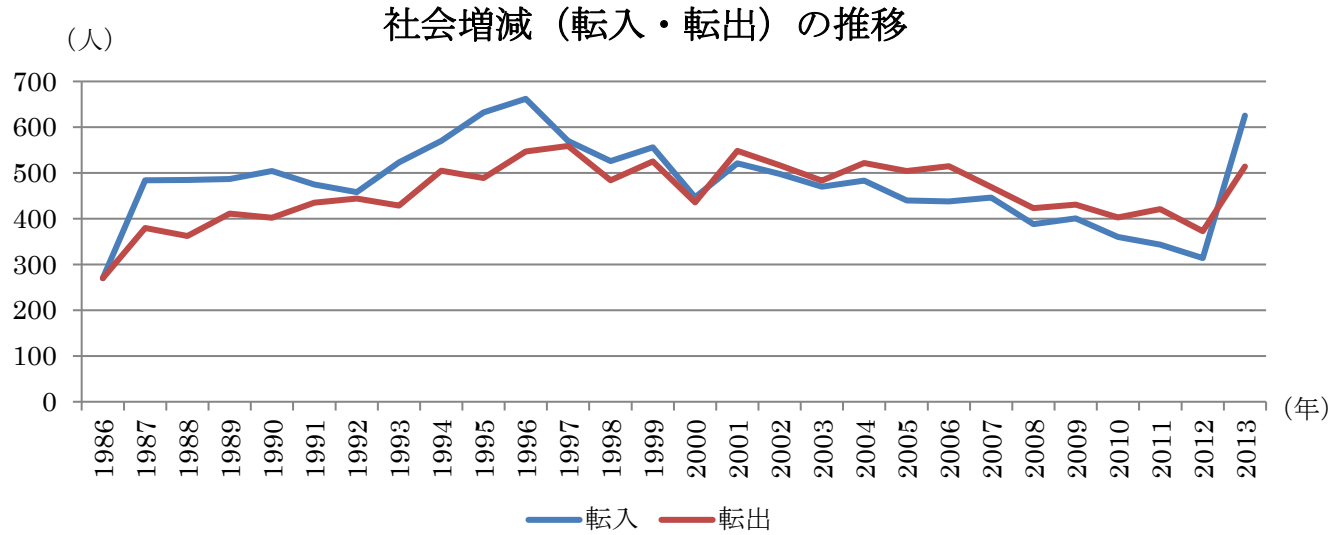
自然増減では、1986 年以降、出生数が死亡数を上回る増加基調が続いてきましたが、2005 年に初めて死亡数が出生数を上回り自然減に転じることとなり、その後もその傾向が続いています。

社会増減でも転入数が、転出数を上回り推移してきており、転入超過が１００人を超える年も見られましたが、２００１年に転出超過に転じました。

社会減の状況となった２００１年以降、自然増減と社会増減を合わせても人口減少の状況が続いています。



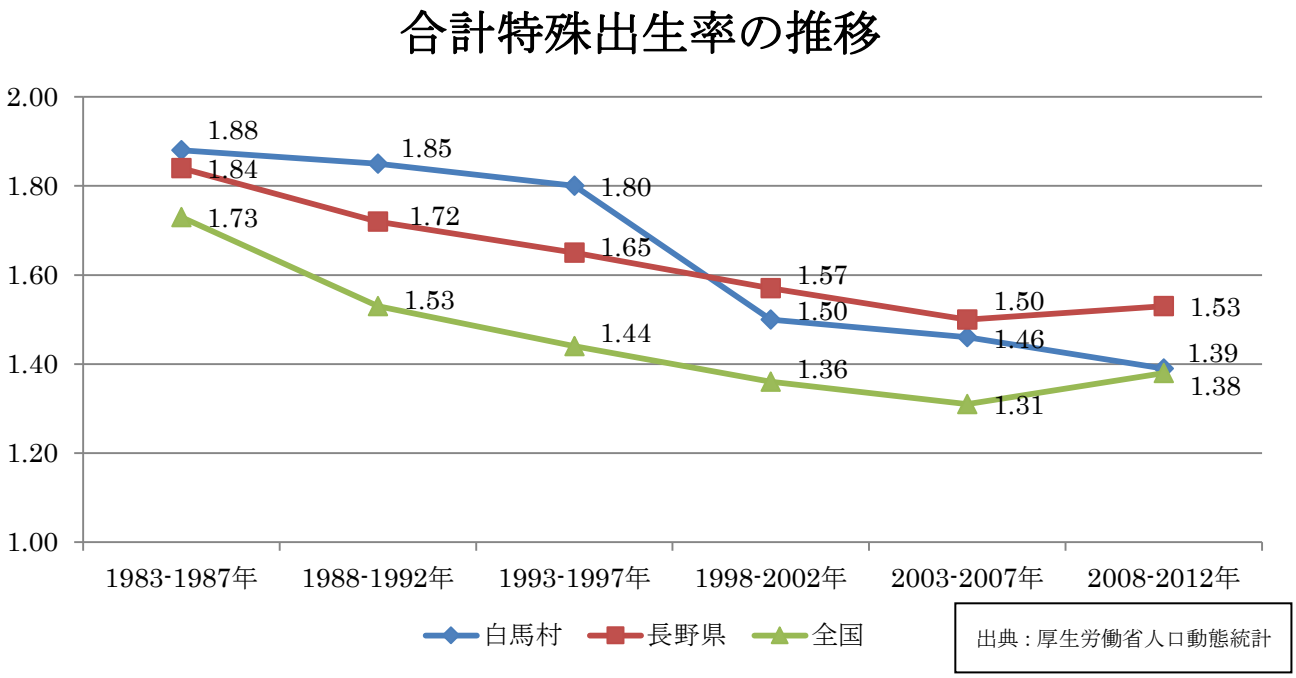

出典：白馬村人口動態




出典：白馬村人口動態

エ　合計特殊出生率の推移

白馬村の合計特殊出生率は、年々低下傾向にあり、2008 年～2012 年の集計値では県内で３番目に低い値となっています。

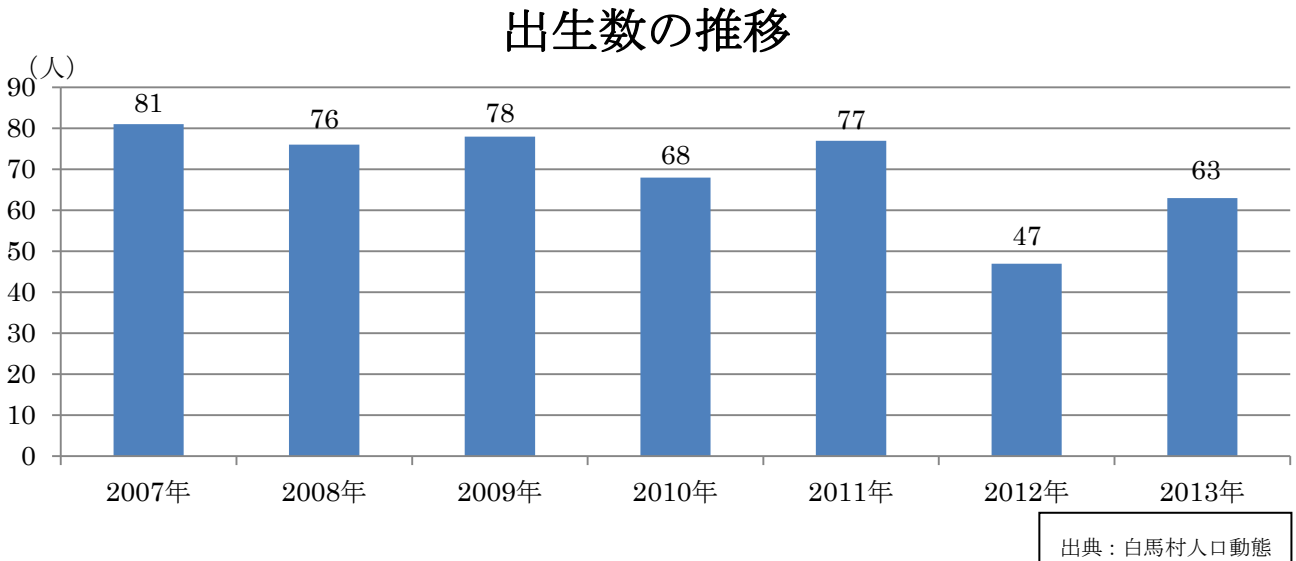



※合計特殊出生率

15 歳から 49 歳までの女性の年齢別（年齢階級別）出生率を合計したもので、一人の女性が一生に産む子供の平均数を示したものです。人口動態の出生の動向を見るときの重要な指標となっています。

オ　出生数の推移

出生数は年々減少傾向にあり、1989 年以降の統計によると 1997 年がピークで 109 人だった出生数が、2013 年には 63 人とゆるやかに減少しています。



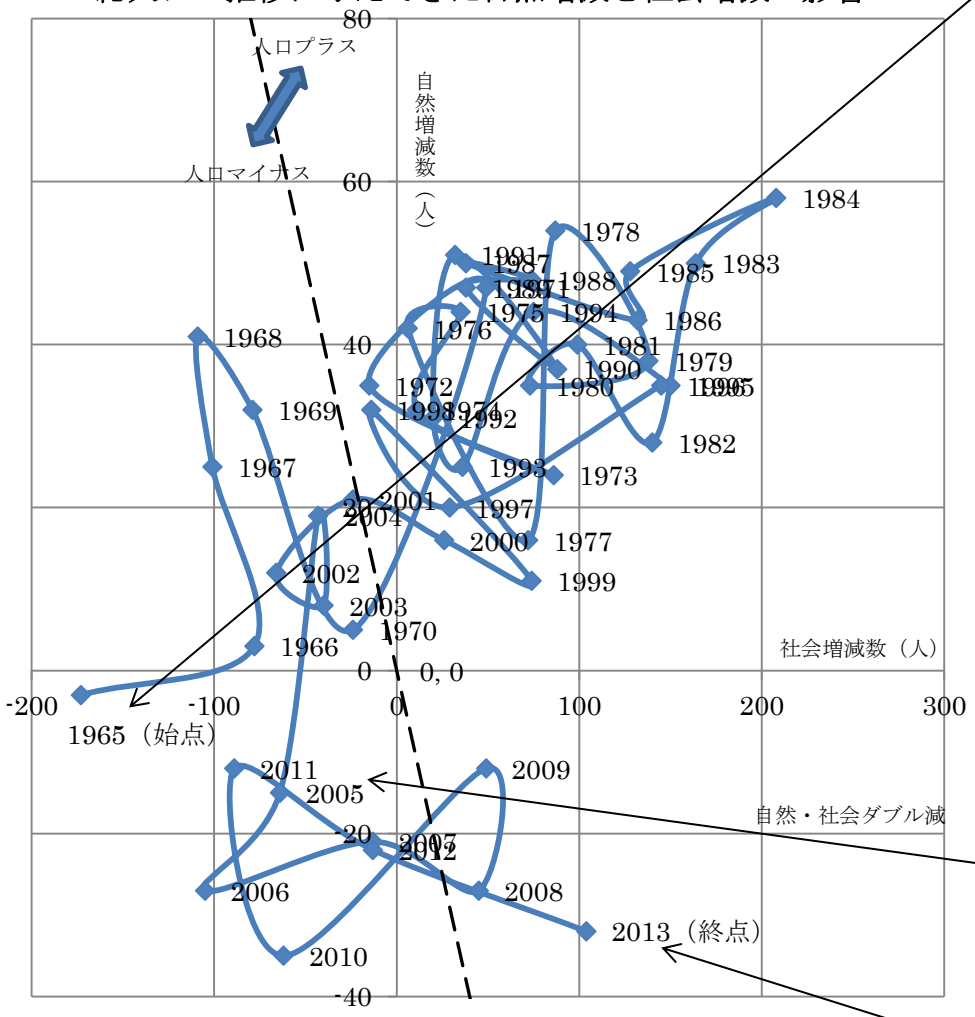
カ　自然増減と社会増減の影響

1965 年から 1972 年まで「社会」減が続きましたが、1973 年以降は社会・自然とも増加基調を辿っています。

観光産業が比較的堅調だった 1970 年代から 1990 年代初頭までは、大幅な社会増が続き、平均寿命の延伸等による自然増と相俟って人口のプラス局面が続きました。

2001 年から社会減、2005 年から社会・自然のダブル減を迎えるなど厳しい局面が続きましたが、2013 年には社会増となるなど人口動態の傾向に僅かながら変化の兆しが表れています。

総人口の推移に与えてきた自然増減と社会増減の影響




| | 社会 | 自然 |
|---|---|---|
| 1965（始点） | −173 | −3 |
| 1966 | −78 | 3 |
| 1967 | −101 | 25 |
| 1968 | −109 | 41 |
| 1969 | −79 | 32 |
| 1970 | −24 | 5 |
| 1971 | 49 | 47 |
| 1972 | −15 | 35 |
| 1973 | 86 | 24 |
| 1974 | 11 | 32 |
| 1975 | 35 | 44 |
| 1976 | 6 | 42 |
| 1977 | 72 | 16 |
| 1978 | 87 | 54 |
| 1979 | 138 | 38 |
| 1980 | 73 | 35 |
| 1981 | 99 | 40 |
| 1982 | 140 | 28 |
| 1983 | 164 | 50 |
| 1984 | 208 | 58 |
| 1985 | 128 | 49 |
| 1986 | 132 | 43 |
| 1987 | 38 | 50 |
| 1988 | 74 | 48 |
| 1989 | 38 | 47 |
| 1990 | 88 | 37 |
| 1991 | 32 | 51 |
| 1992 | 20 | 31 |
| 1993 | 36 | 25 |
| 1994 | 75 | 44 |
| 1995 | 150 | 35 |
| 1996 | 145 | 35 |
| 1997 | 29 | 20 |
| 1998 | −14 | 32 |
| 1999 | 74 | 11 |
| 2000 | 26 | 16 |
| 2001 | −24 | 21 |
| 2002 | −66 | 12 |
| 2003 | −40 | 8 |
| 2004 | −43 | 19 |
| 2005 | −64 | −15 |
| 2006 | −105 | −27 |
| 2007 | −13 | −21 |
| 2008 | 45 | −27 |
| 2009 | 49 | −12 |
| 2010 | −62 | −35 |
| 2011 | −89 | −12 |
| 2012 | −13 | −22 |
| 2013（終点） | 104 | −32 |

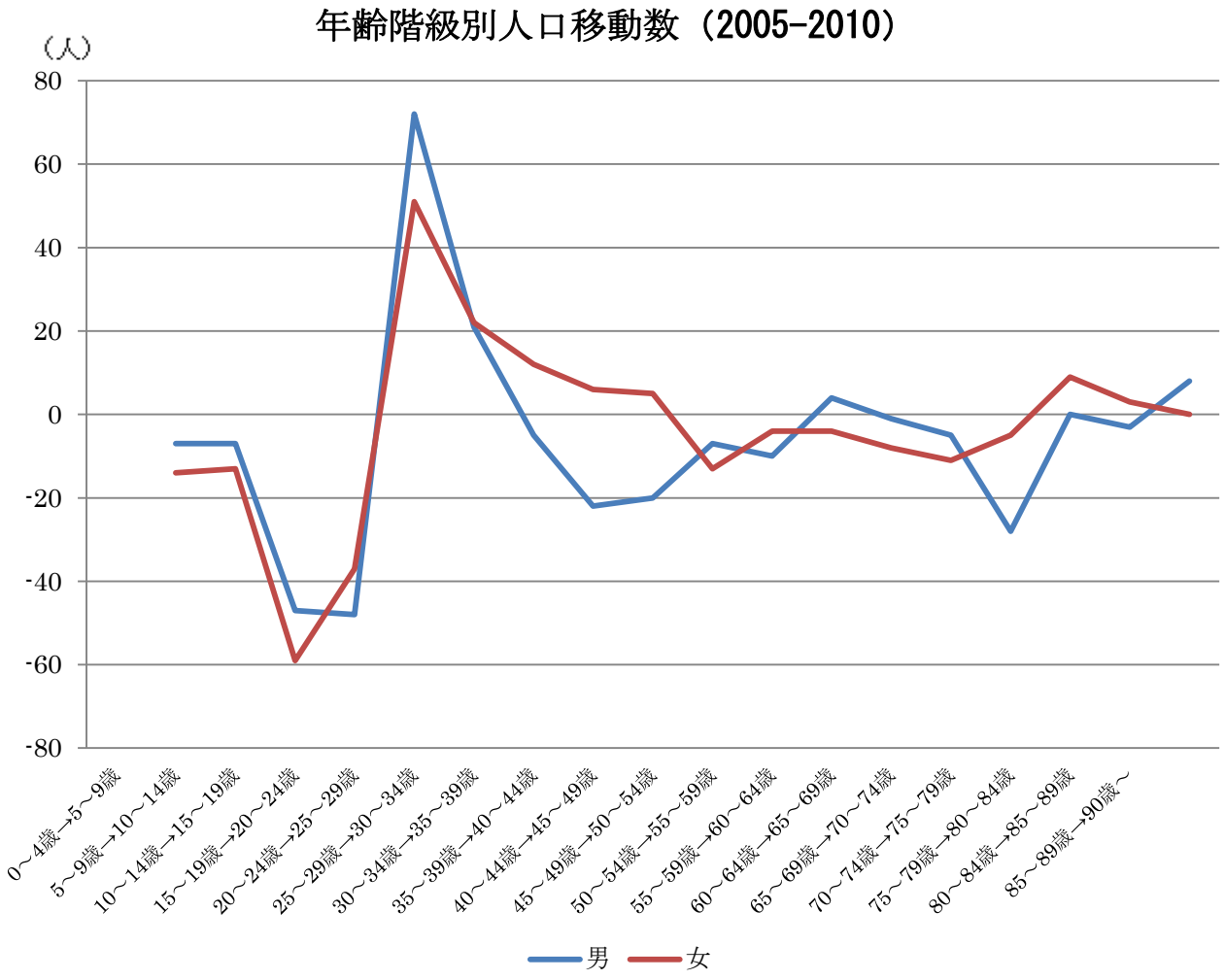
（考察）

1960 年代は高度経済成長を背景とした生産年齢人口の都市部流出増の影響を受けたものの、1970～1980 年代は白馬村の主力産業である観光産業（とりわけスキー観光）が急成長し、安定的な社会増をもたらしました。しかし、1998 年の長野冬季オリンピック以後、スキー人口は減少し、若者のスキー離れが観光産業に暗い影を落とし始め、観光宿泊業を中心に雇用環境が悪化を始めます。以降、観光産業の回復が進まない中、2001 年には社会減に、2005 年には社会・自然のダブル減局面に突入します。しかし近年のインバウンド観光の施策推進が奏功し、外国人観光客（スキーヤー等）が堅調に増加したことで、白馬村の観光産業の好況が下支えされ、また、外国人に係る住民基本台帳法の改正もあり 2013 年の大幅な社会増に結び付いたと考えられます。

キ　年齢階級別人口の社会増減移動数

高校・大学進学、就職等に伴い 20 代前半で一旦流出に転じる傾向は大北管内の他市町村と同様ですが、スキー・登山などの山岳観光地としての知名度の高さを背景に、20 代後半の男女がともに大きく流入しているのが特徴的です。

年齢段階の後半で移動率がゼロ水準に収斂されるのは、年齢が後段階に至るに従い定着率が高まる人口動態の一般的な形態を示すものです。

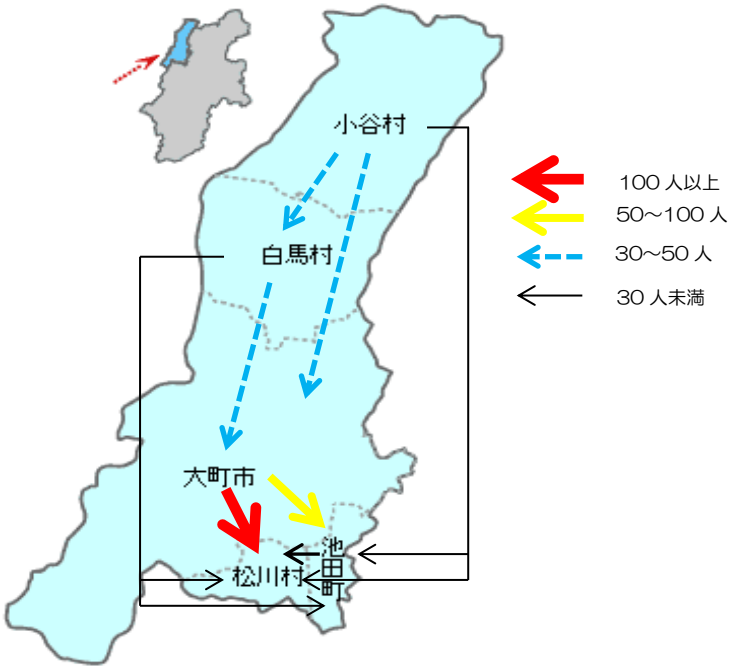



出典：国勢調査

ク　大北圏域における人口移動

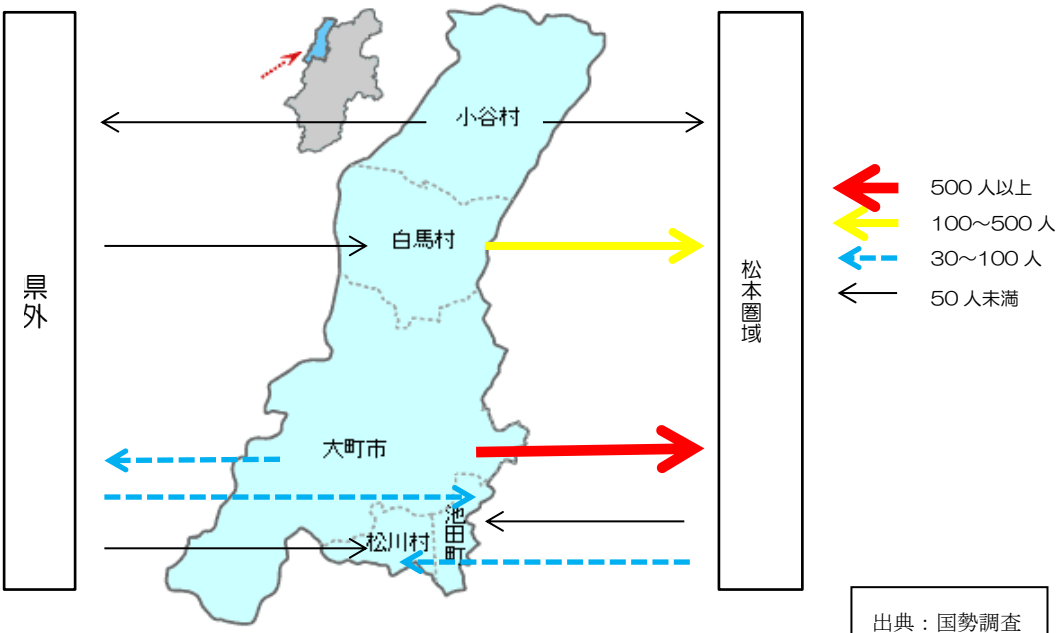
①大北圏域内の人口移動（平成１７年～平成２２年）

圏域内の人口動態は、北部エリア（小谷村・白馬村）から南部エリア（大町市・池田町・松川村）へ移動する傾向を示しています。しかし一方で、大町市から池田町・松川村への人口流出も比較的大きく表れています。




②大北圏域外の人口移動

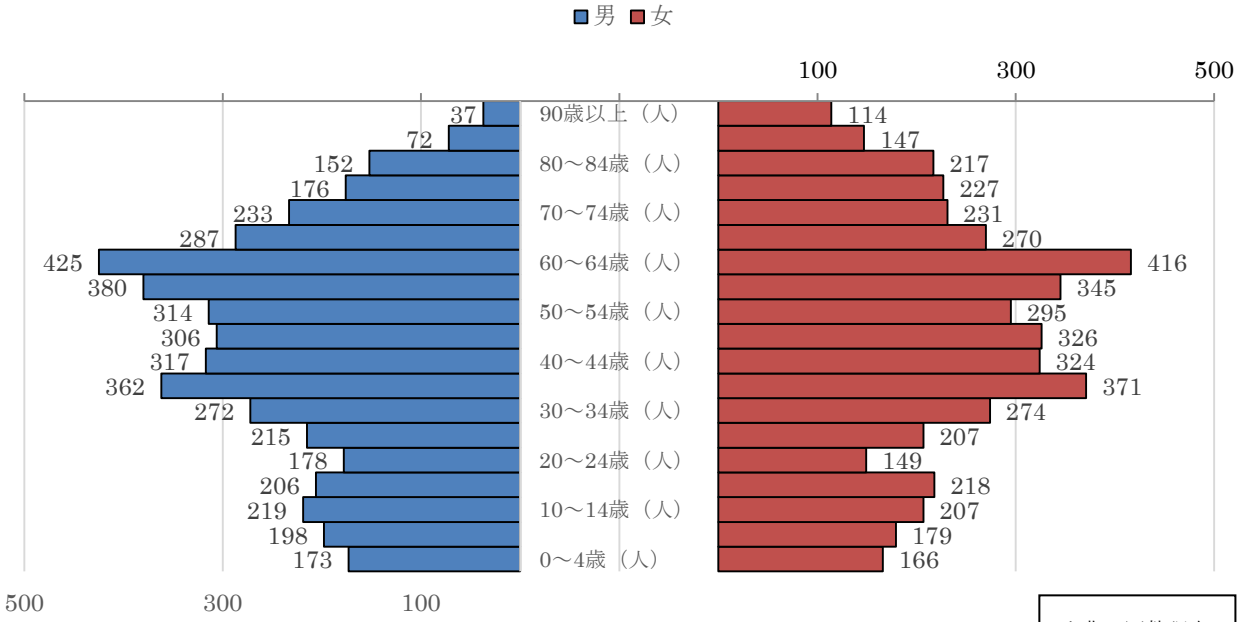
池田町・松川村は県外・松本圏域からの流入がある一方、大町市・小谷村は流出するなど、北部と南部で人口動態が二極化しています。とりわけ大町市から松本圏域・県外への流出が多く、大北圏域の人口ダム機能が十分発揮されていない様子が伺えます。




出典：国勢調査

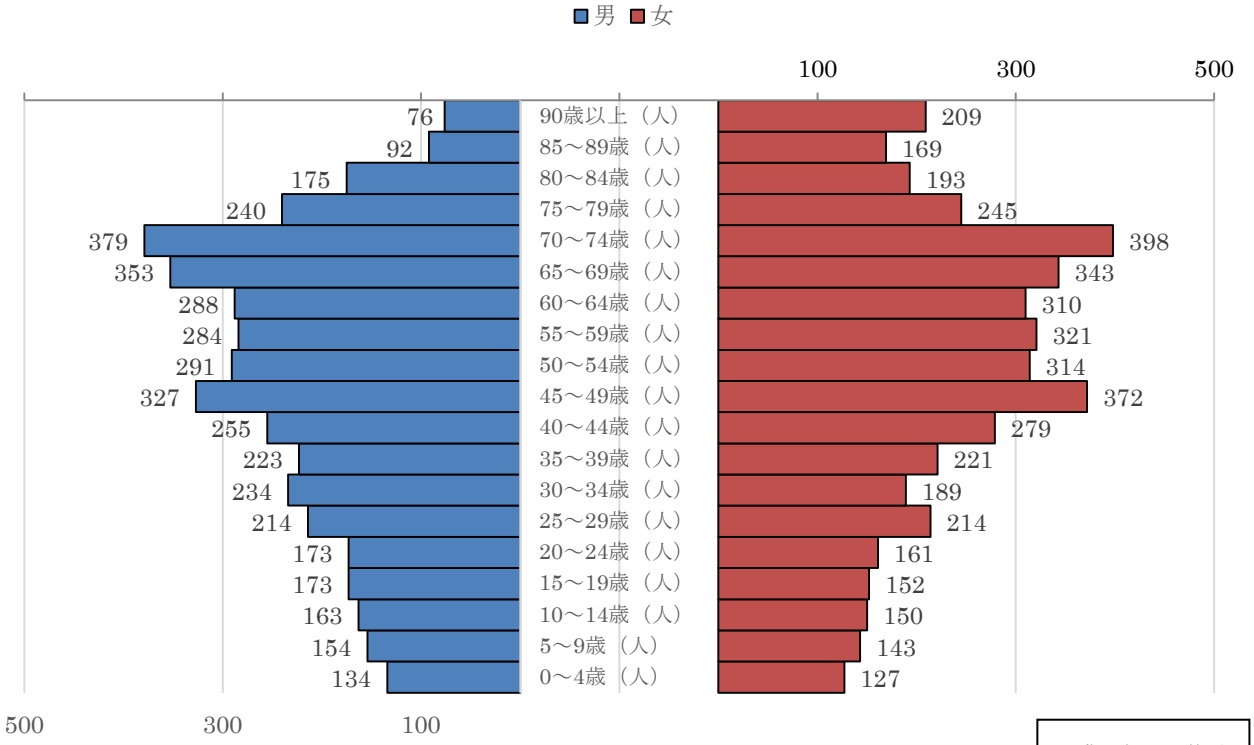
## ケ　年齢階級・男女別の人口構成

2010年白馬村人口ピラミッド



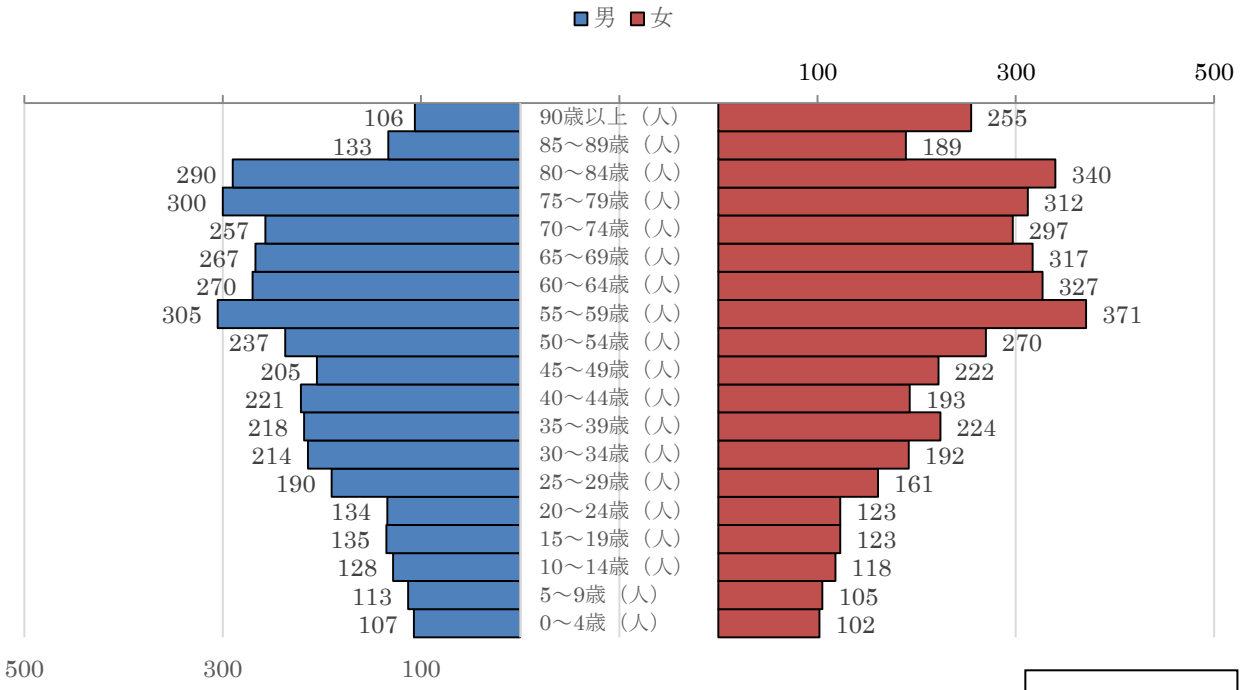

出典：国勢調査

2020白馬村人口ピラミッド



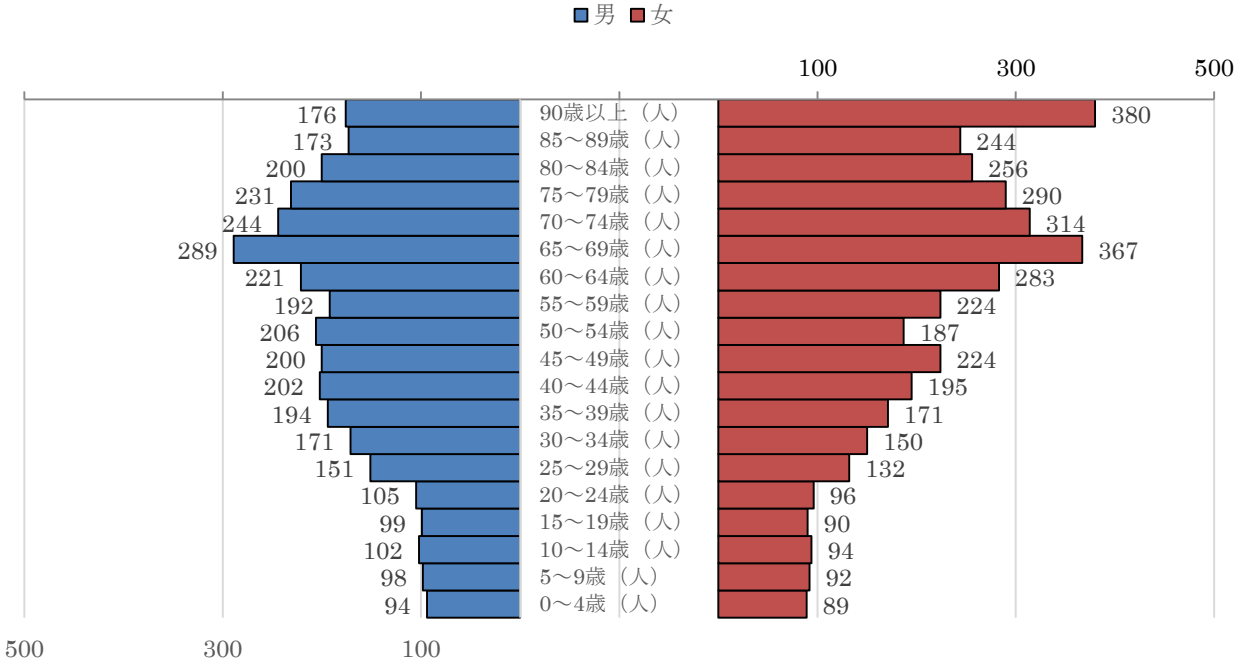

出典：社人研推計

2030白馬村人口ピラミッド




出典：社人研推計

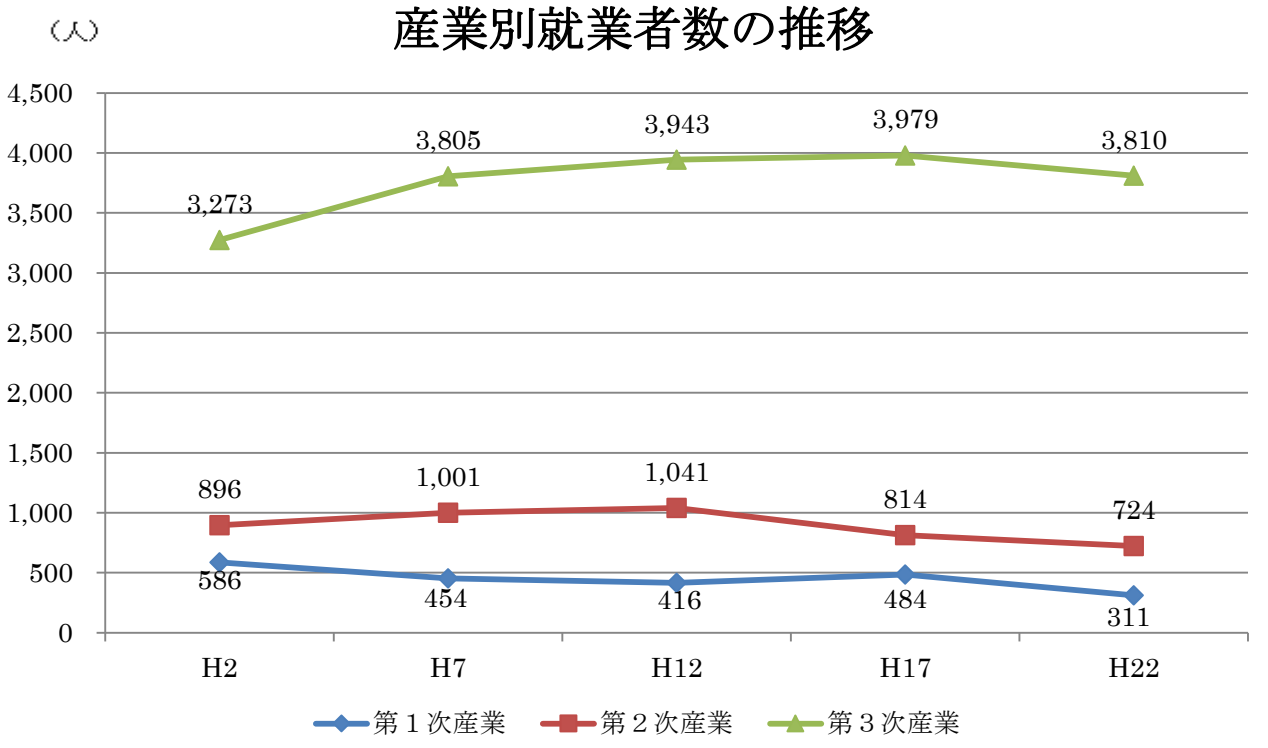
2040年白馬村人口ピラミッド



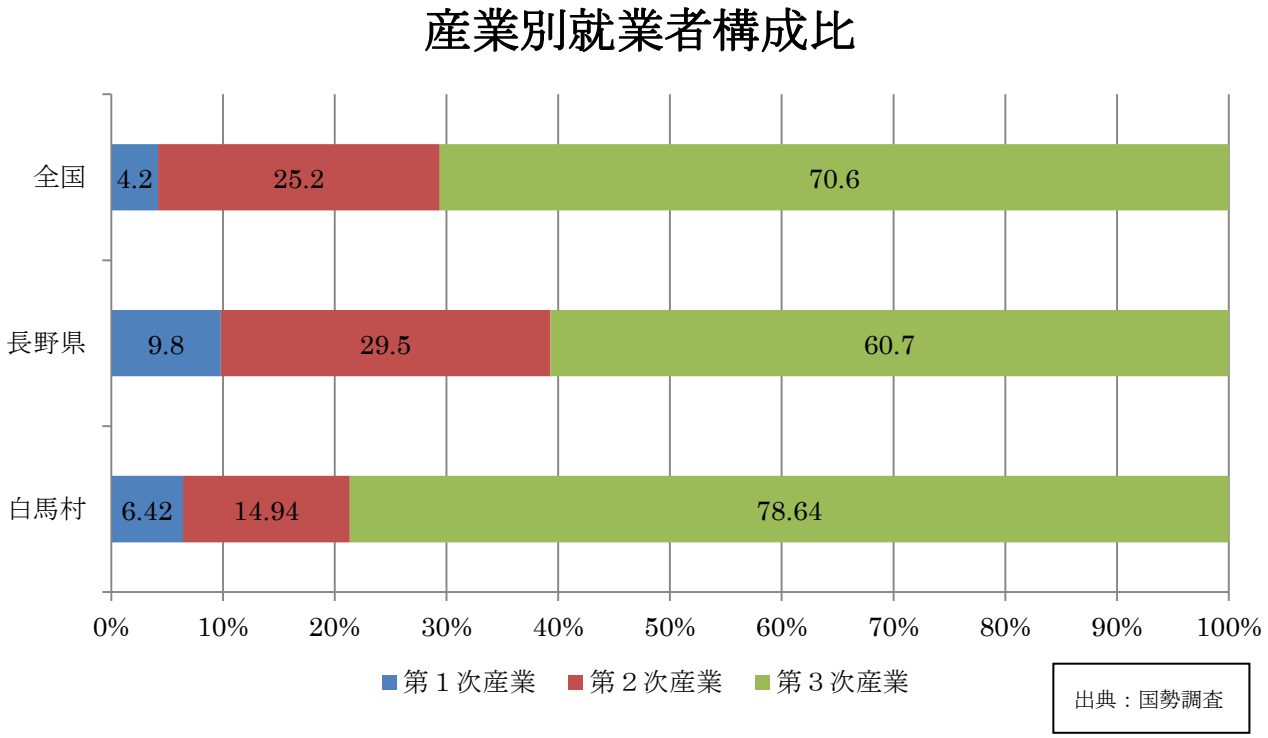

出典：社人研推計

コ　産業別就業者数

第３次産業の就業者数は増加傾向からほぼ横ばいとなり、構成比で見ると長野県や全国を上回っています。



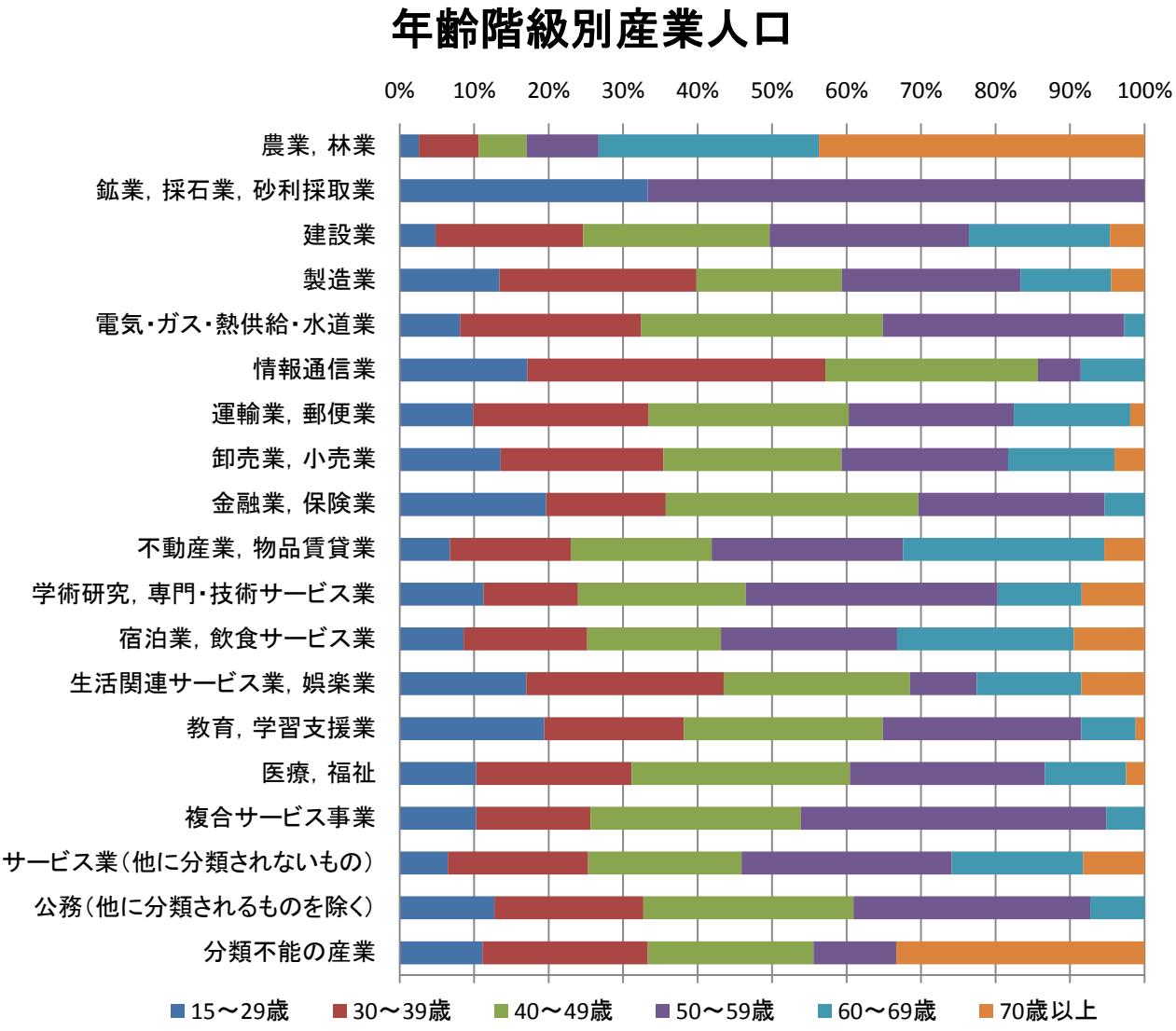

出典：国勢調査




出典：国勢調査

サ　年齢階級別産業人口

農業、林業人口では、６０歳以上が約３／４を占め、他の産業に比べ高齢化が進んでおり、後継者対策が重要となっています。最も就業者数が多い宿泊・飲食サービス業は比較的年齢構成のバランスが取れていて、幅広い年齢層の雇用の受け皿となっていることが分かります。



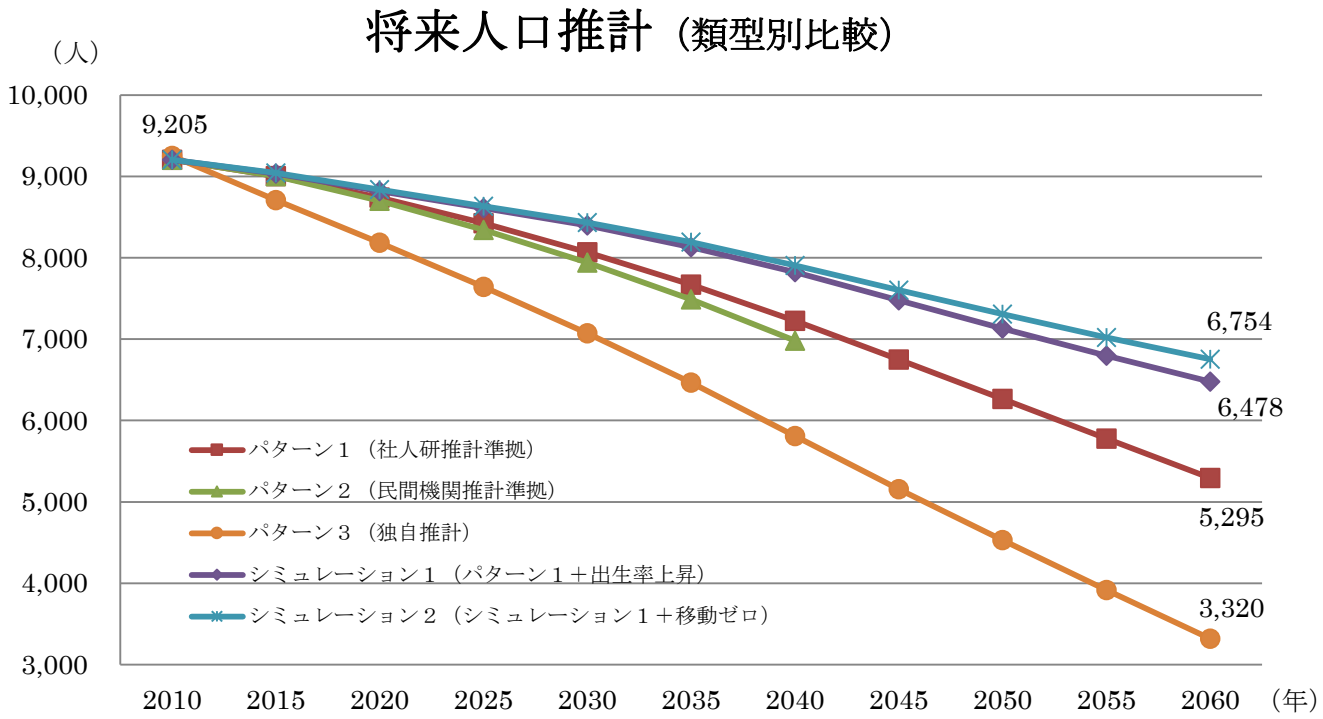

出典：国勢調査

（２）将来人口の推計と分析

ア　将来人口推計

出生ゼロ・流出入均衡を想定したパターン３の最下位曲線と他の類型とのギャップが比較的大きいこと、出生率上昇・流入均衡を想定したシミュレーション（以下、「シミュレ」という。）２と出生率上昇のみを想定したシミュレ１が相似していることから、人口流出の影響より出生率の影響が将来人口に与える影響が大きいことを示唆しています。

シミュレ１・２の水準は比較的高く、人口対策次第でパターン１よりも現状に近い人口規模に減少の歯止めをかけることが期待できる余地があります。



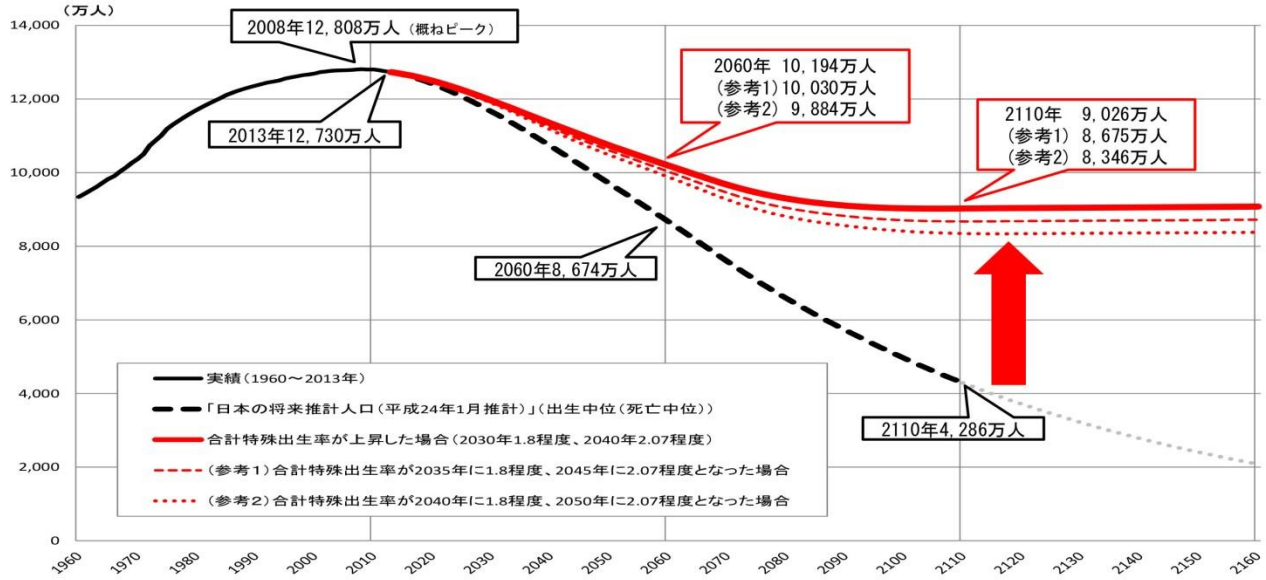

| | |
|---|---|
| 各類型の設定条件 | パターン１（基本線）<br>・出生　子ども女性比（CWR：基準年次の０～４歳男女別人口÷15～49 歳女性人口）⇒　現状の水準で推移<br>・死亡　生存率（S:５年後の男女・年齢別（５歳階級別）生存率）⇒　現状の水準で推移<br>・移動　純移動率（NW:基準年次とその５年前からの社会動態による純移動率）⇒　現状の 0.5 倍で推移（緩和） |
| | パターン２<br>・出生　子ども女性比（CWR）⇒　パターン１と同じ<br>・死亡　生存率（S）⇒　パターン１と同じ<br>・移動　純移動率（NW）⇒　現状の 1.0 倍で推移（現状と同水準） |
| | パターン３<br>・出生　合計特殊出生率（TFR）がゼロ（出生数ゼロ）<br>・死亡　パターン１と同じ（但し、TFR0 設定なので死亡数の影響あり）<br>・移動　純移動率（NW）がゼロ（流入出が±0 の移動均衡状態） |
| | シミュレーション１　※<br>・出生　パターン１の子ども女性比（CWR）を基本に、合計特殊出生率（TFR）を人口置換水準 2.1 に引き上げて推移<br>・死亡　パターン１と同じ（但し、TFR2.1 設定によって死亡数の影響は相殺される）<br>・移動　パターン１と同じ |
| | シミュレーション２<br>・出生　パターン１の子ども女性比（CWR）を基本に、合計特殊出生率（TFR）を人口置換水準 2.1 に引き上げて推移<br>・死亡　パターン１と同じ（但し、TFR2.1 設定によって死亡数の影響は相殺される）<br>・移動　純移動率（NW）がゼロ（流入出が±0 の移動均衡状態） |

※人口置換水準とは、人口が増加も減少もしない均衡した状態となる合計特殊出生率の水準のこと。若年期の死亡率が低下すると人口が減りにくくなるので、この水準値は低くなる。現在の日本の人口置換水準は 2.07（平成２４年、社人研）

《参考》国、県の人口の将来展望

国「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」

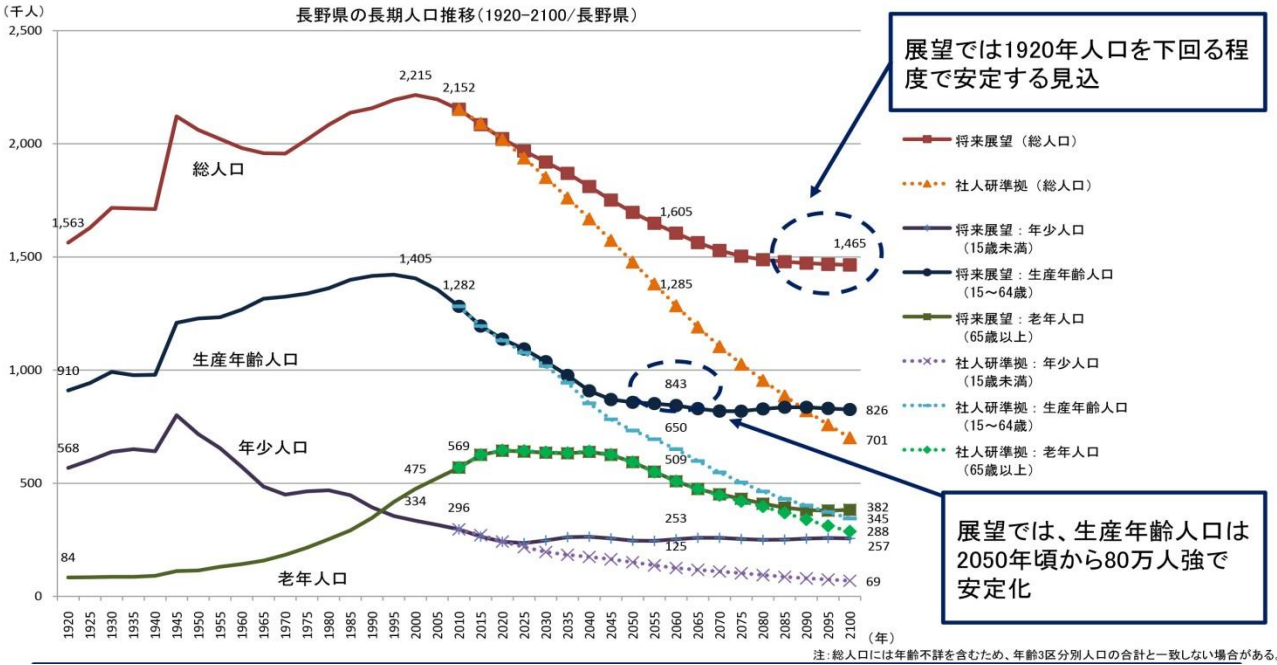
○　国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」（出生中位（死亡中位））によると、2060年の総人口は約8,700万人まで減少すると見通されている。
○　仮に、合計特殊出生率が2030年に1.8程度、2040年に2.07程度（2020年には1.6程度）まで上昇すると、2060年の人口は約1億200万人となり、長期的には9,000万人程度で概ね安定的に推移するものと推計される。
○　なお、仮に、合計特殊出生率が1.8や2.07となる年次が５年ずつ遅くなると、将来の定常人口が概ね300万人程度少なくなると推計される。




（注１）実績は、総務省統計局「国勢調査」等による（各年10月１日現在の人口）。国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」は出生中位（死亡中位）の仮定による。2110～2160年の点線は2110年までの仮定等をもとに、まち・ひと・しごと創生本部事務局において機械的に延長したものである。
（注２）「合計特殊出生率が上昇した場合」は、経済財政諮問会議専門調査会「選択する未来」委員会における人口の将来推計を参考にしながら、合計特殊出生率が2030年に1.8程度、2040年に2.07程度（2020年には1.6程度）となった場合について、まち・ひと・しごと創生本部事務局において推計を行ったものである。

長野県人口定着・確かなくらし実現総合戦略

1920（大正9）年から2100（平成112）年までの長期人口推移。2015（平成27）年以降は、一定の政策を講じた場合（将来展望推計）と特段の政策を講じない場合（社人研準拠推計）の推移の比較。




注：総人口には年齢不詳を含むため、年齢3区分別人口の合計と一致しない場合がある。

## イ　将来人口に及ぼす自然増減・社会増減の影響度の分析

| | |
|---|---|
| 影響度の計算と５段階整理 | 【自然増減の影響度】<br>「シミュレ１の平成 52 年（2040）の総人口」÷「パターン１の平成 52 年（2040）の総人口」の数値に応じ、次の５段階に整理<br>「1」＝100%未満、「2」＝100～105%、「3」＝105～110%、「4」＝110～115%、「5」＝115%以上<br>【社会増減の影響度】<br>「シミュレ２の平成 52 年（2040）の総人口」÷「シミュレ１の平成 52 年（2040）の総人口」の数値に応じ、次の５段階に整理<br>「1」＝100%未満、「2」＝100～110%、「3」＝110～120%、「4」＝120～130%、「5」＝130%以上 |

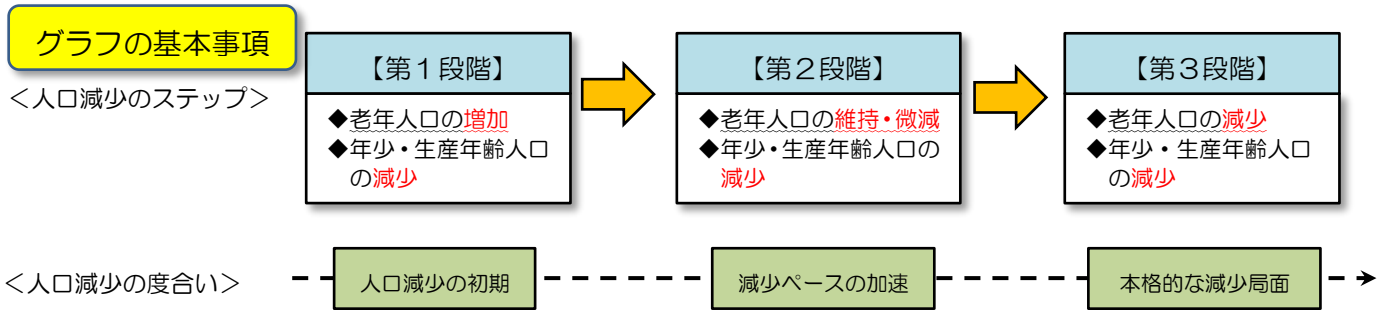
| | | 自然増減の影響度（2040） | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 総計 |
| 社会増減の影響度（2040） | 1 | 2 | 6 | 7 | 1 | 0 | 16 |
| | | 川上村、下條村 | 南牧村、原村、南箕輪村、高森町、平谷村、山形村 | 佐久市、安曇野市、軽井沢町、御代田町、売木村、池田町、松川村 | 麻績村 | | 20.8% |
| | 2 | | 11 | 17 | 0 | 0 | 28 |
| | | | 飯田市、伊那市、駒ヶ根市、茅野市、青木村、富士見町、箕輪町、中川村、宮田村、喬木村、木祖村 | 長野市、松本市、上田市、中野市、塩尻市、千曲市、東御市、南相木村、松川町、阿南町、泰阜村、豊丘村、朝日村、白馬村、高山村、木島平村、飯綱町 | | | 36.4% |
| | 3 | | 6 | 16 | | | 22 |
| | | | 岡谷市、須坂市、長和町、辰野町、根羽村、小布施町 | 諏訪市、小諸市、飯山市、小海町、北相木村、佐久穂町、立科町、下諏訪町、飯島町、阿智村、生坂村、筑北村、坂城町、信濃町、小川村、栄村 | | | 28.6% |
| | 4 | | 3 | 5 | | | 8 |
| | | | 上松町、南木曽町、木曽町 | 大町市、天龍村、大鹿村、山ノ内町、野沢温泉村 | | | 10.4% |
| | 5 | | 1 | 2 | | | 3 |
| | | | 小谷村 | 王滝村、大桑村 | | | 3.9% |
| | 総計 | 2 | 27 | 47 | 1 | 0 | 77 |
| | | 2.6% | 35.1% | 61.0% | 1.3% | 0.0% | |

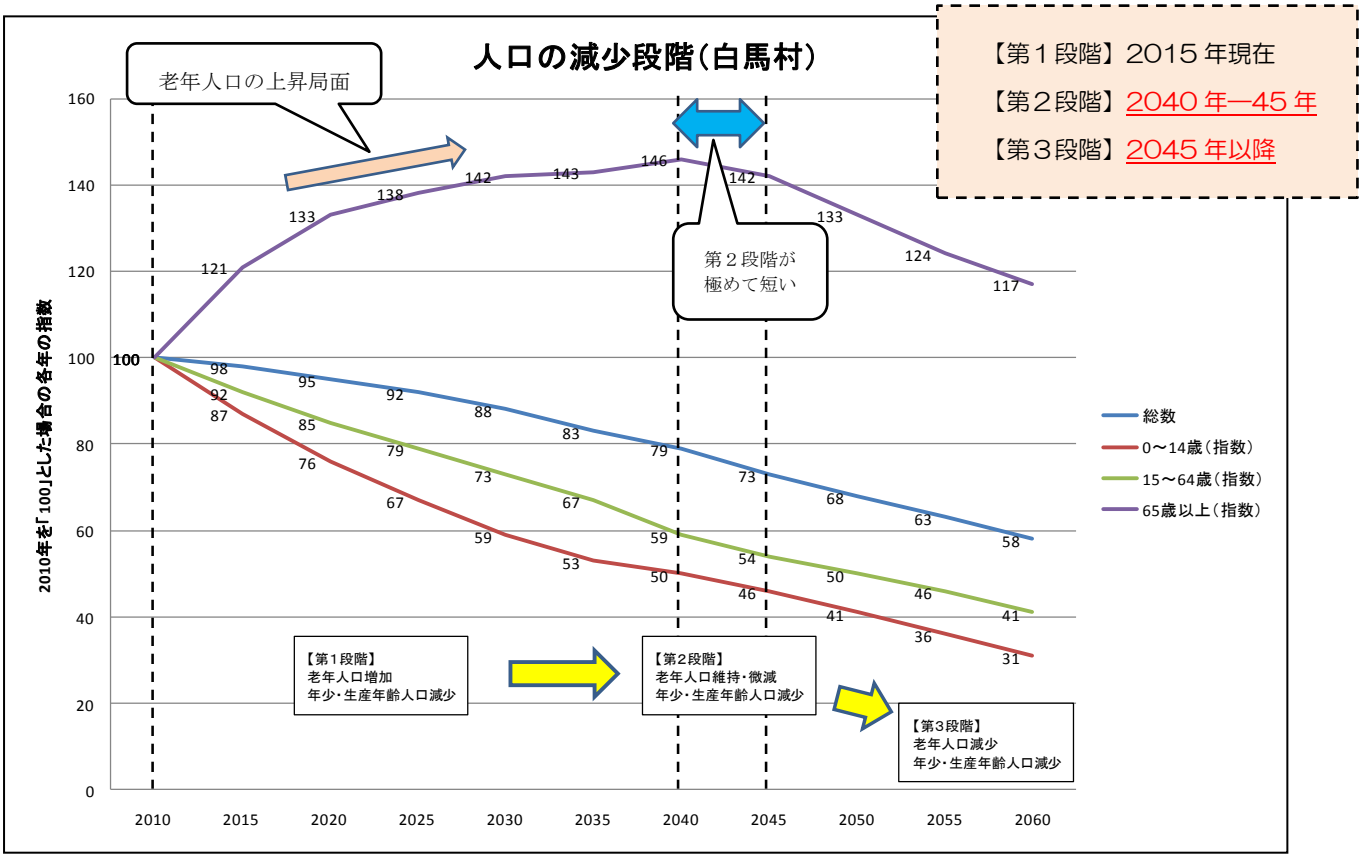
白馬村は、北アルプスを中心とした山岳観光地として全国的な知名度が高く、流入人口が一定程度見込まれるため、社会増減の影響は比較的受けにくいと考えられます。一方、自然増減の影響を受けやすいのは、流入人口の高齢化や人口構造の高齢層への偏在等が自然増の伸び悩みに繋がっていると考えられます。

ウ　人口減少段階の分析

年少・生産年齢人口の下降カーブは他の地域同様ですが、老年人口が大幅かつ比較的長期にわたり上昇推移する点が特徴的で、老年人口の構成割合が次第に高まっていく様子が伺えます（第１段階）。

2040 年に老年人口に減少の兆しが見え始め（第２段階）、その後、極めてわずかな期間で老年人口の減少を伴う本格的な総人口減少局面に突入します（第３段階）。

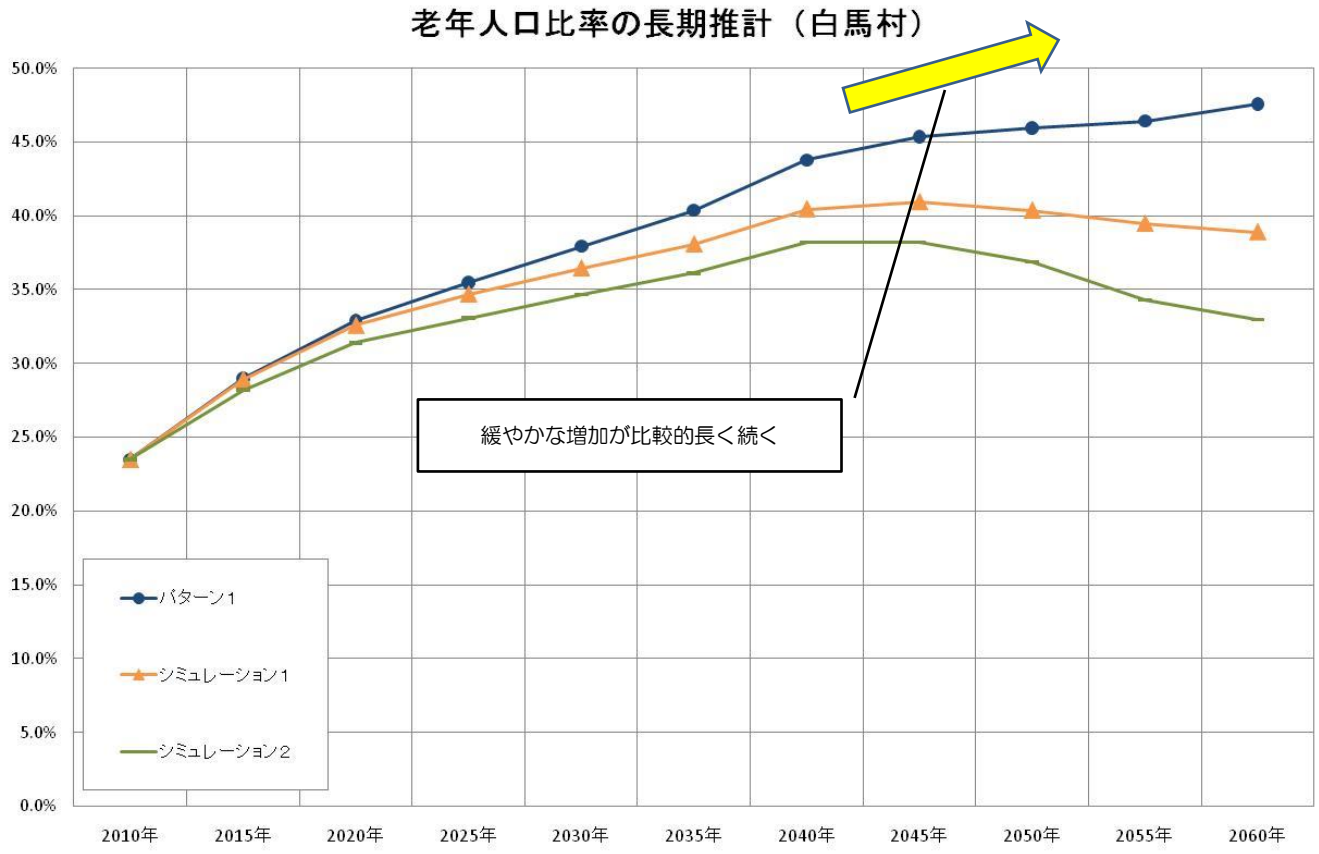


エ　老年人口比率の変化

出生率の上昇による年少人口の増加や、流入人口の増加が図られれば、老年人口比率の上昇をある程度抑制させることができ、本村は、老年人口割合の増加基調が比較的長いことから、若年層流入人口の増加対策や出生率上昇対策を同時に進める必要があります。

| | |
|---|---|
| 各類型の設定条件（簡易表） | 【パターン１(青)】　CWR「―」　／　S「―」　／　NM：現状の 0.5 倍　＜基本線＞<br>【シミュレ１(橙)】　TFR：2.1（人口置換水準）　／　S「―」　／　NM「―」<br>【シミュレ２(緑)】　TFR：2.1（人口置換水準）　／　S「―」　／　NM：ゼロ均衡 |



## ３　人口の将来展望

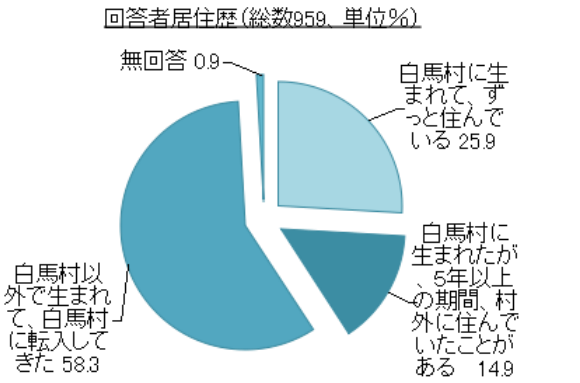
### （１）将来展望に必要な調査・分析

人口ビジョン・総合戦略の策定にあたり、平成２７年３月に実施した第５次総合計画策定のための住民アンケートを活用し、分析を行いました。

| | |
|---|---|
| 調査対象 | 20歳以上の村民2,000人（男女各1,000人）を無作為抽出 |
| 調査方法 | 郵送により調査票を配布、郵送により回収 |
| 回収票数 | ９５９通 |
| 回収率 | ４８．０％ |

**・白馬村にどのくらいお暮らしですか？（お住まいの経歴）**

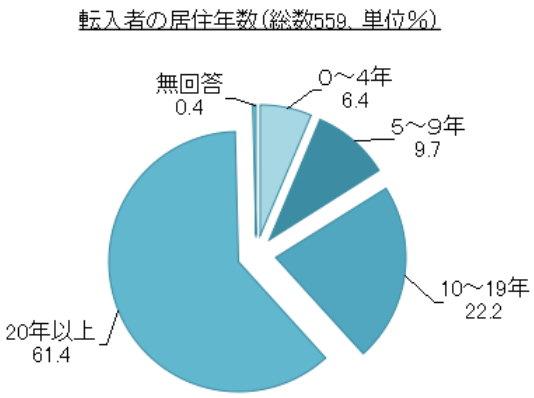
| | 回答数 | 割合（%） |
|---|---|---|
| 白馬村に生まれて、ずっと住んでいる | 248 | 25.9 |
| 白馬村に生まれたが、５年以上の期間、村外に住んでいたことがある | 143 | 14.9 |
| 白馬村以外で生まれて、白馬村に転入してきた | 559 | 58.3 |
| 無回答 | 9 | 0.9 |
| 回答者総数（%ベース） | 959 | 100 |




〇「白馬村以外で生まれて、白馬村に転入してきた」とする人が58.3%（559人）と半数を超えています。「白馬村に生まれて、ずっと住んでいる」人が25.9%（248人）、「白馬村に生まれたが、５年以上の期間、村外に住んでいたことがある」人が14.9%（143人）です。

**・転入された方は、白馬村に住んで何年になりますか？（累計）**

| | 回答数 | 割合（%） |
|---|---|---|
| 0～4年 | 36 | 6.4 |
| 5～9年 | 54 | 9.7 |
| 10～19年 | 124 | 22.2 |
| 20年以上 | 343 | 61.4 |
| 無回答 | 2 | 0.4 |
| 回答者総数（%ベース） | 559 | 100 |




〇転入者のうち、「20年以上」居住している人が61.4%（343人）と半数を超え、次いで「10～19年」が22.2%（124人）、「５～９年」が9.7%（54人）となっています。

**・あなたが感じている白馬村の「満足度」についてお答えください。各項目について、該当する番号を1つずつ選んでください。**

| 分野 | 項目 | 満足度（上段：回答数／下段：割合（%）） | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 不満 | やや不満 | どちらともいえない | やや満足 | 満足 | 無回答 |
| 環境保全 | ア．自然環境や景観の保全 | 68 | 156 | 266 | 339 | 121 | 9 |
| | （総数959） | 7.1 | 16.3 | 27.7 | 35.3 | 12.6 | 0.9 |
| | イ．美化運動の推進 | 61 | 214 | 424 | 214 | 34 | 12 |
| | （総数959） | 6.4 | 22.3 | 44.2 | 22.3 | 3.5 | 1.3 |
| | ウ．環境浄化対策（屋外広告、案内板、自販機設置規制等） | 75 | 190 | 443 | 197 | 39 | 15 |
| | （総数959） | 7.8 | 19.8 | 46.2 | 20.5 | 4.1 | 1.6 |
| | エ．緑化事業の推進 | 63 | 175 | 510 | 159 | 35 | 17 |
| | （総数959） | 6.6 | 18.2 | 53.2 | 16.6 | 3.6 | 1.8 |
| | オ．青少年への自然保護教室 | 73 | 202 | 543 | 99 | 20 | 22 |
| | （総数959） | 7.6 | 21.1 | 56.6 | 10.3 | 2.1 | 2.3 |
| | カ．里山の保全 | 91 | 248 | 426 | 150 | 28 | 16 |
| | （総数959） | 9.5 | 25.9 | 44.4 | 15.6 | 2.9 | 1.7 |
| | キ．地球温暖化対策 | 97 | 222 | 521 | 78 | 16 | 25 |
| | （総数959） | 10.1 | 23.1 | 54.3 | 8.1 | 1.7 | 2.6 |

**○満足度高い「自然環境や景観の保全」** 全体として、「どちらともいえない」が40～50%台を占め、これに「やや不満」が20%台で続いています。これに対し、「ア．自然環境や景観の保全」では、「やや満足」35.3%（339人）が最も多く、これに「どちらともいえない」が27.7%（266人）と続き、「満足」も12.6%（121人）と比較的高い値を示しています。また、「ウ．環境浄化対策（屋外広告、案内板、自販機設置規制等）」は、「どちらともいえない」が46.2%（443人）で最も多く、「やや満足」が20.5%（197人）でこれに次ぎ、ともに全体として満足度が高いことが分かります。

| 分野 | 項目 | 満足度（上段：回答数／下段：割合（%）） | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 不満 | やや不満 | どちらともいえない | やや満足 | 満足 | 無回答 |
| 基盤整備・生活環境 | ク．身近な生活道路の整備 | 187 | 288 | 221 | 219 | 29 | 15 |
| | （総数959） | 19.5 | 30.0 | 23.0 | 22.8 | 3.0 | 1.6 |
| | ケ．下水道の整備 | 93 | 129 | 325 | 270 | 131 | 11 |
| | （総数959） | 9.7 | 13.5 | 33.9 | 28.2 | 13.7 | 1.1 |
| | コ．河川環境の整備 | 71 | 171 | 398 | 250 | 55 | 14 |
| | （総数959） | 7.4 | 17.8 | 41.5 | 26.1 | 5.7 | 1.5 |
| | サ．除雪・融雪など雪対策の充実 | 88 | 179 | 227 | 343 | 111 | 11 |
| | （総数959） | 9.2 | 18.7 | 23.7 | 35.8 | 11.6 | 1.1 |
| | シ．消防・防災対策の充実 | 42 | 117 | 391 | 329 | 67 | 13 |
| | （総数959） | 4.4 | 12.2 | 40.8 | 34.3 | 7.0 | 1.4 |
| | ス．防犯灯など防犯対策 | 89 | 236 | 366 | 214 | 44 | 10 |
| | （総数959） | 9.3 | 24.6 | 38.2 | 22.3 | 4.6 | 1.0 |
| | セ．ごみの分別、リサイクル活動の推進 | 71 | 201 | 358 | 261 | 53 | 15 |
| | （総数959） | 7.4 | 21.0 | 37.3 | 27.2 | 5.5 | 1.6 |

**○「ク．身近な生活道路の整備」で高い不満度** 全体的に「どちらともいえない」が30～40%台で最も多くなっていますが、「ク．身近な生活道路の整備」では「やや不満」が30.0%（288人）と最も高く、また「サ．除雪・融雪など雪対策の充実」では「やや満足」が35.8%（343人）と最も高くなっています。

| 分野 | 項目 | 満足度（上段：回答数／下段：割合（%）） | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 不満 | やや不満 | どちらともいえない | やや満足 | 満足 | 無回答 |
| 健康・福祉・医療 | ソ. 高齢者のための施設や制度の充実 | 102 | 230 | 421 | 165 | 28 | 13 |
| | （総数959） | 10.6 | 24.0 | 43.9 | 17.2 | 2.9 | 1.4 |
| | タ. 障がいのある方のための施設や制度の充実 | 95 | 245 | 515 | 78 | 12 | 14 |
| | （総数959） | 9.9 | 25.5 | 53.7 | 8.1 | 1.3 | 1.5 |
| | チ. 子育て支援制度や施設の充実 | 77 | 189 | 496 | 151 | 28 | 18 |
| | （総数959） | 8.0 | 19.7 | 51.7 | 15.7 | 2.9 | 1.9 |
| | ツ. 保健・医療体制や施設の充実 | 96 | 269 | 402 | 159 | 22 | 11 |
| | （総数959） | 10.0 | 28.1 | 41.9 | 16.6 | 2.3 | 1.1 |
| | テ. ボランティア活動の支援 | 39 | 149 | 614 | 115 | 24 | 18 |
| | （総数959） | 4.1 | 15.5 | 64.0 | 12.0 | 2.5 | 1.9 |
| | ト. 健康づくり制度 | 40 | 112 | 573 | 193 | 26 | 15 |
| | （総数959） | 4.2 | 117.0 | 59.7 | 20.1 | 2.7 | 1.6 |
| | ナ. バリアフリー化 | 105 | 268 | 499 | 52 | 15 | 20 |
| | （総数959） | 10.9 | 27.9 | 52.0 | 5.4 | 1.6 | 2.1 |

**○「健康づくり制度」で高い満足度**　全体的に「どちらともいえない」が40～60%台、「やや不満」が20%台を占めていますが、このうち、「やや不満」の割合が高いのは「ツ. 保健・医療体制や施設の充実」28.1%（269人）、「ナ. バリアフリー化」27.9%（268人）などです。一方、「ト. 健康づくり制度」では20.1%（193人）が「やや満足」と答えています。

| 分野 | 項目 | 満足度（上段：回答数／下段：割合（%）） | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 不満 | やや不満 | どちらともいえない | やや満足 | 満足 | 無回答 |
| 教育・文化 | ニ. 義務教育の教育環境の充実 | 44 | 107 | 525 | 227 | 35 | 21 |
| | （総数959） | 4.6 | 11.2 | 54.7 | 23.7 | 3.6 | 2.2 |
| | ヌ. 生涯学習を支援する制度や施設の充実 | 52 | 198 | 521 | 147 | 17 | 24 |
| | （総数959） | 5.4 | 20.6 | 54.3 | 15.3 | 1.8 | 2.5 |
| | ネ. スポーツ活動を支援する制度や施設の充実 | 68 | 199 | 424 | 218 | 30 | 20 |
| | （総数959） | 7.1 | 20.8 | 44.2 | 22.7 | 3.1 | 2.1 |
| | ノ. 文化活動、地域活動への支援 | 51 | 179 | 547 | 142 | 20 | 20 |
| | （総数959） | 5.3 | 18.7 | 57.0 | 14.8 | 2.1 | 2.1 |
| | ハ. 文化財の保護や保存 | 44 | 151 | 594 | 122 | 28 | 20 |
| | （総数959） | 4.6 | 15.7 | 61.9 | 12.7 | 2.9 | 2.1 |
| | ヒ. 家庭や地域内での子どもへの教育 | 49 | 171 | 585 | 110 | 21 | 23 |
| | （総数959） | 5.1 | 17.8 | 61.0 | 11.5 | 2.2 | 2.4 |

**○「スポーツ活動を支援する制度や施設の充実」では評価が分かれる**

全体的に「どちらともいえない」が半数を超えていますが、「やや満足」では「ニ. 義務教育の教育環境の充実」が23.7%（227人）と高い半面、特に「ヌ. 生涯学習を支援する制度や施設の充実」で「やや不満」が20.6%（198人）と高く、また、「ネ. スポーツ活動を支援する制度や施設の充実」では、「どちらともいえない」が44.2%（424人）が比較的低い半面、「やや満足」が22.7%（218人）、「やや不満」が20.8%（199人）と評価が大きく分かれる結果となっています。

| 分野 | 項目 | 満足度（上段：回答数／下段：割合（%）） | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 不満 | やや不満 | どちらともいえない | やや満足 | 満足 | 無回答 |
| 産業・観光 | フ．特産品開発と生産振興 | 133 | 305 | 381 | 110 | 13 | 17 |
| | （総数959） | 13.9 | 31.8 | 39.7 | 11.5 | 1.4 | 1.8 |
| | ヘ．観光産業の振興 | 133 | 274 | 378 | 137 | 15 | 22 |
| | （総数959） | 13.9 | 28.6 | 39.4 | 14.3 | 1.6 | 2.3 |
| | ホ．観光・レクリエーション等の拠点整備 | 150 | 297 | 370 | 110 | 11 | 21 |
| | （総数959） | 15.6 | 31.0 | 38.6 | 11.5 | 1.1 | 2.2 |
| | マ．観光宣伝活動 | 114 | 223 | 427 | 153 | 22 | 20 |
| | （総数959） | 11.9 | 23.3 | 44.5 | 16.0 | 2.3 | 2.1 |
| | ミ．インバウンド対策 | 61 | 167 | 555 | 120 | 21 | 35 |
| | （総数959） | 6.4 | 17.4 | 57.9 | 12.5 | 2.2 | 3.6 |
| | ム．各種イベントの開催 | 80 | 169 | 520 | 145 | 24 | 21 |
| | （総数959） | 8.3 | 17.6 | 54.2 | 15.1 | 2.5 | 2.2 |

**○不満度が高い「特産品開発と生産振興」と「観光・レクリエーション等の拠点整備」**

全体的に「どちらともいえない」が40～50%を占め、これに「やや不満」が続いていますが、特に不満度が高いのが「フ．特産品開発と生産振興」と「ホ．観光・レクリエーション等の拠点整備」です。いずれも「不満」「やや不満」を合わせると約46%になります。同様に「観光産業の振興」も不満が40%を超えます。

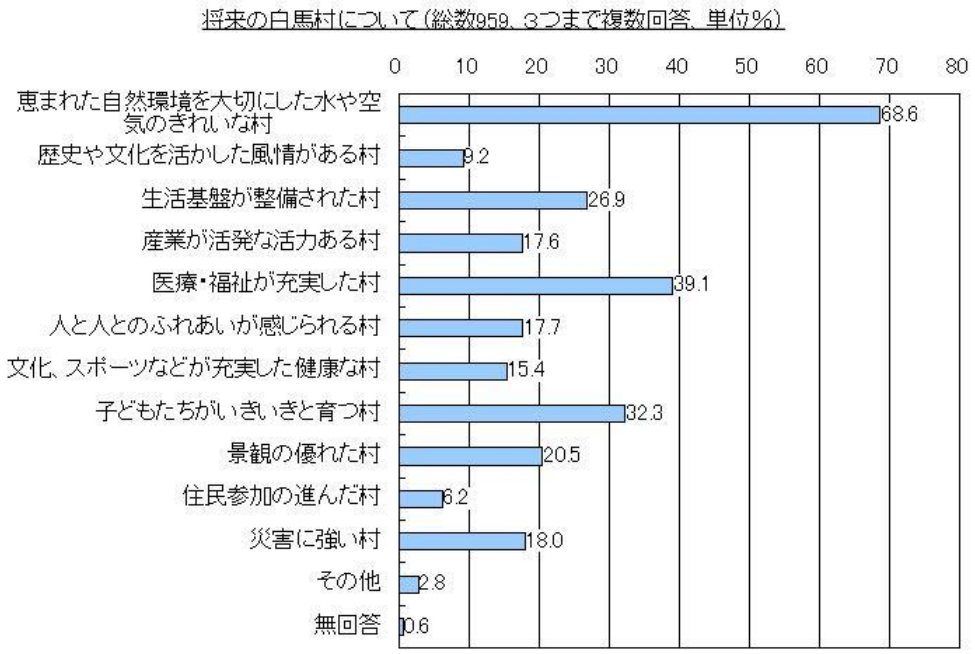
| 分野 | 項目 | 満足度（上段：回答数／下段：割合（%）） | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 不満 | やや不満 | どちらともいえない | やや満足 | 満足 | 無回答 |
| 行政・住民参加 | メ．男女が平等に参加できる社会づくり | 54 | 159 | 560 | 136 | 27 | 23 |
| | （総数959） | 5.6 | 16.6 | 58.4 | 14.2 | 2.8 | 2.4 |
| | モ．情報化への対応 | 80 | 246 | 497 | 101 | 12 | 23 |
| | （総数959） | 8.3 | 25.7 | 51.8 | 10.5 | 1.3 | 2.4 |
| | ヤ．住民参加によるまちづくりの推進 | 74 | 238 | 533 | 80 | 11 | 23 |
| | （総数959） | 7.7 | 24.8 | 55.6 | 8.3 | 1.1 | 2.4 |
| | ユ．情報公開の推進 | 95 | 210 | 537 | 82 | 13 | 22 |
| | （総数959） | 9.9 | 21.9 | 56.0 | 8.6 | 1.4 | 2.3 |
| | ヨ．地区に対する支援制度 | 84 | 234 | 507 | 101 | 13 | 20 |
| | （総数959） | 8.8 | 24.4 | 52.9 | 10.5 | 1.4 | 2.1 |

**○「情報化への対応」で不満度が高い**

いずれも「どちらともいえない」が50%台で、これに「やや不満」が続いています。このうち、「不満」「やや不満」を合わせた割合が最も高いのが、「モ．情報化への対応」34%（326人）です。

**・あなたが望む将来の白馬村は、どのような村ですか？（該当するもの3つまで）**

| | 回答数 | 割合（%） |
|---|---|---|
| 恵まれた自然環境を大切にした水や空気のきれいな村 | 658 | 68.6 |
| 歴史や文化を活かした風情がある村 | 88 | 9.2 |
| 生活基盤が整備された村 | 258 | 26.9 |
| 産業が活発な活力ある村 | 169 | 17.6 |
| 医療・福祉が充実した村 | 375 | 39.1 |
| 人と人とのふれあいが感じられる村 | 170 | 17.7 |
| 文化、スポーツなどが充実した健康な村 | 148 | 15.4 |
| 子どもたちがいきいきと育つ村 | 310 | 32.3 |
| 景観の優れた村 | 197 | 20.5 |
| 住民参加の進んだ村 | 59 | 6.2 |
| 災害に強い村 | 173 | 18.0 |
| その他 | 27 | 2.8 |
| 無回答 | 6 | 0.6 |
| 回答者総数（%ベース） | 959 | 100 |



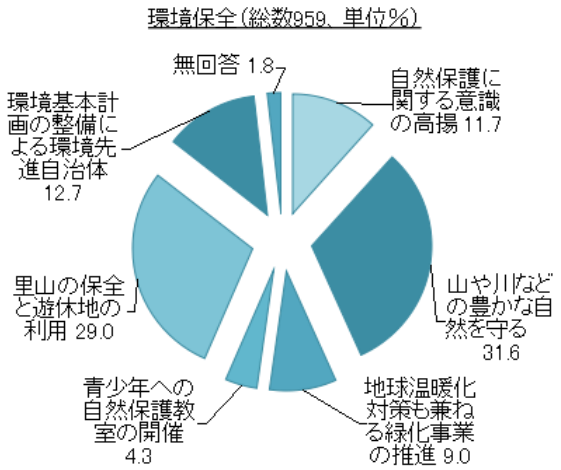

**○圧倒的に「恵まれた自然環境を大切にした水や空気のきれいな村」**

「恵まれた自然環境を大切にした水や空気のきれいな村」が圧倒的に高く68.6%（658人）、これに「医療・福祉が充実した村」39.1%（375人）、「子どもたちがいきいきと育つ村」32.3%（310人）、「生活基盤が整備された村」26.9%（258人）などが続いています。

**・あなたが望む白馬村となるためには、どのようなことに特に力を入れたらよいと思いますか？**

**[環境保全]**

| | 回答数 | 割合(%) |
|---|---|---|
| 自然保護に関する意識の高揚 | 112 | 11.7 |
| 山や川などの豊かな自然を守る | 303 | 31.6 |
| 地球温暖化対策も兼ねる緑化事業の推進 | 86 | 9.0 |
| 青少年への自然保護教室の開催 | 41 | 4.3 |
| 里山の保全と遊休地の利用 | 278 | 29.0 |
| 環境基本計画の整備による環境先進自治体 | 122 | 12.7 |
| 無回答 | 17 | 1.8 |
| 回答者総数(%ベース) | 959 | 100 |

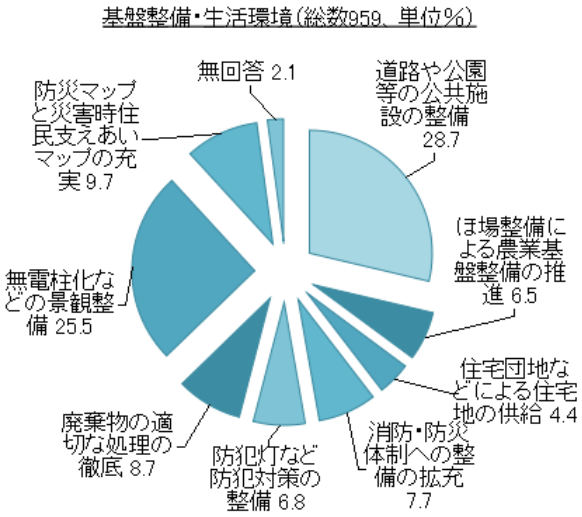



**〇豊かな自然を守り、かつ、遊休地を利用**

「山や川などの豊かな自然を守る」が31.6%(303人)と「里山の保全と遊休地の利用」29.0%(278人)が拮抗し、これらに「環境基本計画の整備による環境先進自治体」12.7%(122人)、「自然保護に関する意識の高揚」11.7%(112人)などが続いています。

**[基盤整備・生活環境]**

| | 回答数 | 割合(%) |
|---|---|---|
| 道路や公園等の公共施設の整備 | 275 | 28.7 |
| ほ場整備による農業基盤整備の推進 | 62 | 6.5 |
| 住宅団地などによる住宅地の供給 | 42 | 4.4 |
| 消防・防災体制への整備の拡充 | 74 | 7.7 |
| 防犯灯など防犯対策の整備 | 65 | 6.8 |
| 廃棄物の適切な処理の徹底 | 83 | 8.7 |
| 無電柱化などの景観整備 | 245 | 25.5 |
| 防災マップと災害時住民支えあいマップの充実 | 93 | 9.7 |
| 無回答 | 20 | 2.1 |
| 回答者総数(%ベース) | 959 | 100 |

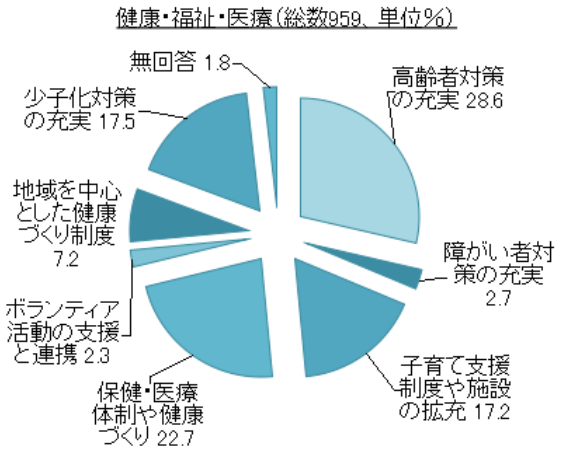



**〇道路・公園など公共施設の整備と景観整備**

**「道路や公園等の公共施設の整備」が28.7%(275人)と最も多く、次いで「無電柱化などの景観整備」25.5%(245人)、「防災マップと災害時住民支えあいマップの充実」9.7%(93人)などが続いています。**

**[健康・福祉・医療]**

| | 回答数 | 割合(%) |
|---|---|---|
| 高齢者対策の充実 | 274 | 28.6 |
| 障がい者対策の充実 | 26 | 2.7 |
| 子育て支援制度や施設の拡充 | 165 | 17.2 |
| 保健・医療体制や健康づくり | 218 | 22.7 |
| ボランティア活動の支援と連携 | 22 | 2.3 |
| 地域を中心とした健康づくり制度 | 69 | 7.2 |
| 少子化対策の充実 | 168 | 17.5 |
| 無回答 | 17 | 1.8 |
| 回答者総数(%ベース) | 959 | 100 |

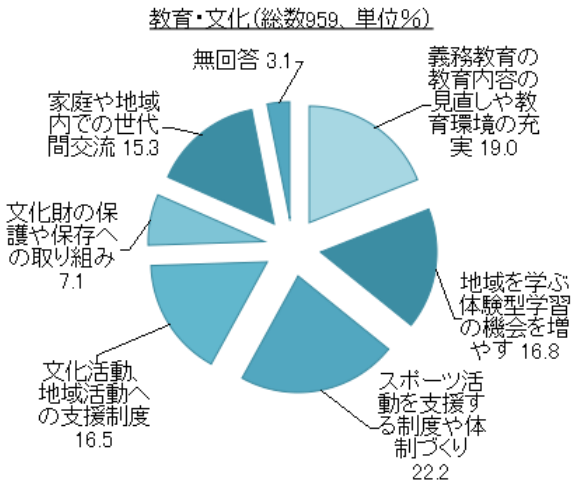



**○高齢者対策と少子化対策・子育て支援**

「高齢者対策の充実」が28.6%(274人)と最も多く、これに「保健・医療体制や健康づくり」22.7%(218人)、「少子化対策の充実」17.5%(168人)、「子育て支援制度や施設の拡充」17.2%(165人)などが続いています。

**[教育・文化]**

| | 回答数 | 割合(%) |
|---|---|---|
| 義務教育の教育内容の見直しや教育環境の充実 | 182 | 19.0 |
| 地域を学ぶ体験型学習の機会を増やす | 161 | 16.8 |
| スポーツ活動を支援する制度や体制づくり | 213 | 22.2 |
| 文化活動、地域活動への支援制度 | 158 | 16.5 |
| 文化財の保護や保存への取り組み | 68 | 7.1 |
| 家庭や地域内での世代間交流 | 147 | 15.3 |
| 無回答 | 30 | 3.1 |
| 回答者総数(%ベース) | 959 | 100 |

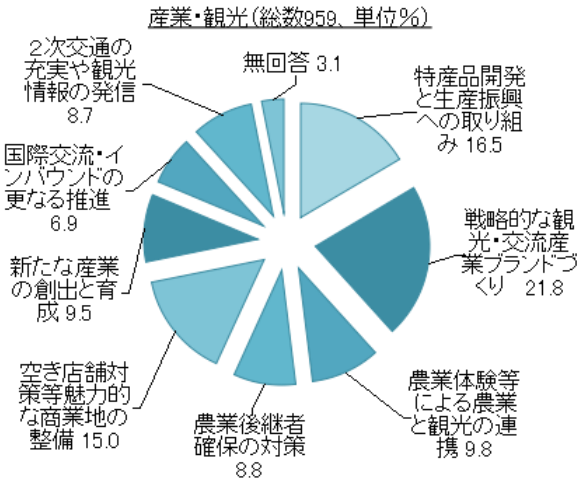



**○全体に意見・要望が分散**

全体に意見・要望が分散しています。「スポーツ活動を支援する制度や体制づくり」22.2%(213人)、「義務教育の教育内容の見直しや教育環境の充実」19.0%(182人)、「地域を学ぶ体験型学習の機会を増やす」16.8%(161人)、「文化活動、地域活動への支援制度」16.5%(158人)などが上位にあります。

**[産業・観光]**

| | 回答数 | 割合(%) |
|---|---|---|
| 特産品開発と生産振興への取り組み | 158 | 16.5 |
| 戦略的な観光・交流産業ブランドづくり | 209 | 21.8 |
| 農業体験等による農業と観光の連携 | 94 | 9.8 |
| 農業後継者確保の対策 | 84 | 8.8 |
| 空き店舗対策等魅力的な商業地の整備 | 144 | 15.0 |
| 新たな産業の創出と育成 | 91 | 9.5 |
| 国際交流・インバウンドの更なる推進 | 66 | 6.9 |
| 2次交通の充実や観光情報の発信 | 83 | 8.7 |
| 無回答 | 30 | 3.1 |
| 回答者総数(%ベース) | 959 | 100 |

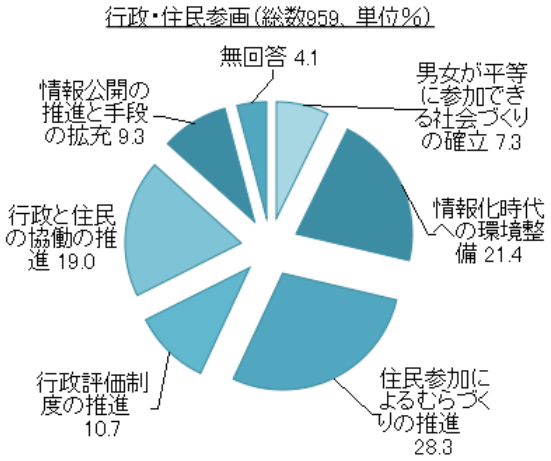



**○戦略的なブランドづくりと特産品開発が重要**

「戦略的な観光・交流産業ブランドづくり」が21.8%(209人)が最も多く、次いで「特産品開発と生産振興への取り組み」16.5%(158人)、「空き店舗対策等魅力的な商業地の整備」15.0%(144人)と続いています。

**[行政・住民参画]**

| | 回答数 | 割合(%) |
|---|---|---|
| 男女が平等に参加できる社会づくりの確立 | 70 | 7.3 |
| 情報化時代への環境整備 | 205 | 21.4 |
| 住民参加によるむらづくりの推進 | 271 | 28.3 |
| 行政評価制度の推進 | 103 | 10.7 |
| 行政と住民の協働の推進 | 182 | 19.0 |
| 情報公開の推進と手段の拡充 | 89 | 9.3 |
| 無回答 | 39 | 4.1 |
| 回答者総数(%ベース) | 959 | 100 |

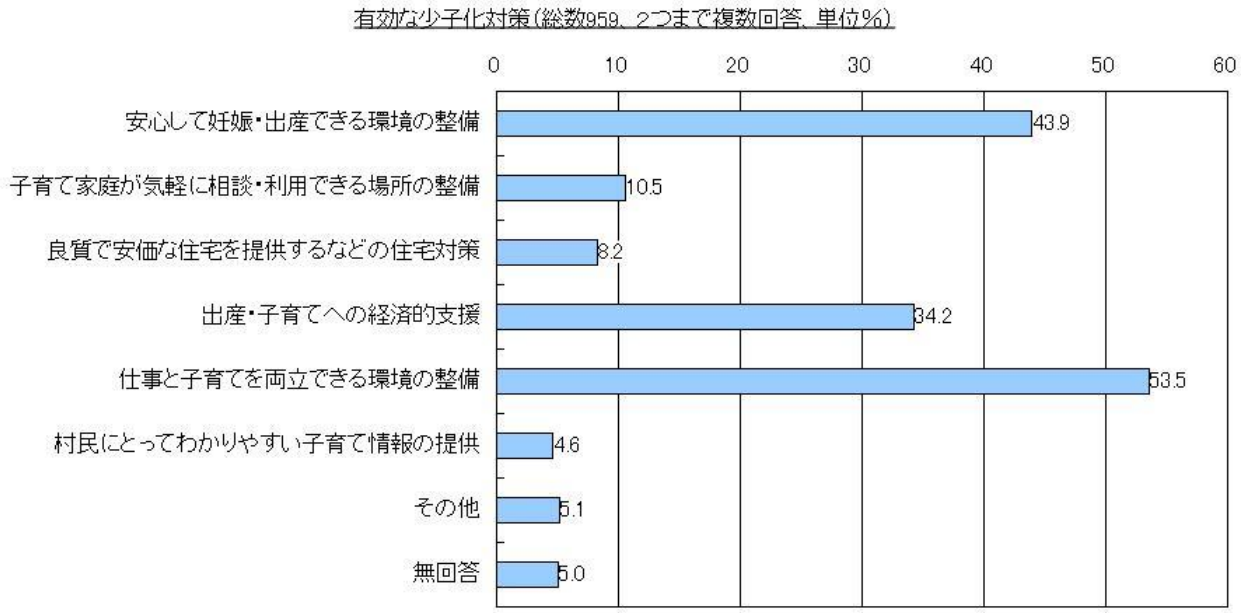



**○住民参加によるむらづくりを推進**

「住民参加によるむらづくりの推進」が28.3%(271人)と最も多く、次いで「情報化時代への環境整備」21.4%(205人)、「行政と住民の協働の推進」19.0%(182人)と続いています。

**・全国的に少子化が問題となっていますが、少子化対策として最も有効と思われるものは何ですか？（該当するもの2つまで）**

| | 回答数 | 割合（%） |
|---|---|---|
| 安心して妊娠・出産できる環境の整備 | 421 | 43.9 |
| 子育て家庭が気軽に相談・利用できる場所の整備 | 101 | 10.5 |
| 良質で安価な住宅を提供するなどの住宅対策 | 79 | 8.2 |
| 出産・子育てへの経済的支援 | 328 | 34.2 |
| 仕事と子育てを両立できる環境の整備 | 513 | 53.5 |
| 村民にとってわかりやすい子育て情報の提供 | 44 | 4.6 |
| その他 | 49 | 5.1 |
| 無回答 | 48 | 5.0 |
| 回答者総数（%ベース） | 959 | 100 |

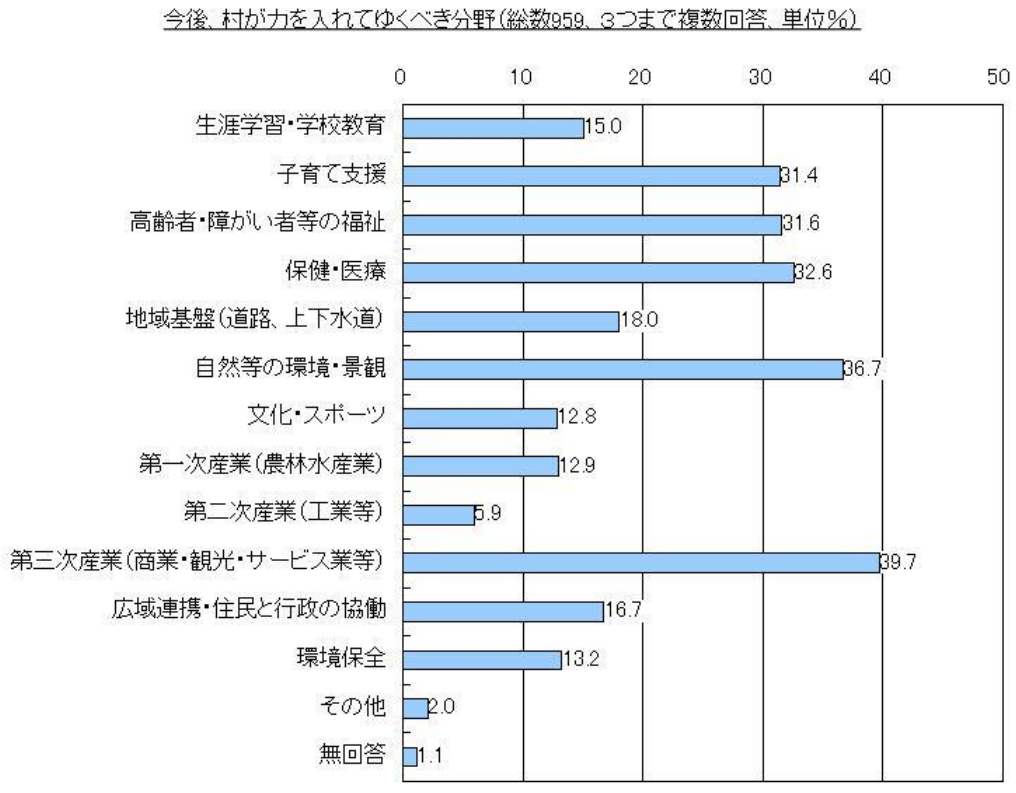



**〇仕事と子育ての両立が過半数**

「仕事と子育てを両立できる環境の整備」が53.5%（513人）と最も多く、次いで、「安心して妊娠・出産できる環境の整備」43.9%（421人）、「出産・子育てへの経済的支援」34.2%（328人）などとなっています。

**・これからの時代、地域自らが、地域の将来を考え、実行していくことの重要性が高まっています。まちづくりにはさまざまな分野がありますが、あなたは、白馬村が今後、より一層活性化したり、いきいきとしていくためには、どんな分野に力を入れていくことが必要だと思いますか？（該当するもの3つまで）**

| | 回答数 | 割合（%） |
|---|---|---|
| 生涯学習・学校教育 | 144 | 15.0 |
| 子育て支援 | 301 | 31.4 |
| 高齢者・障がい者等の福祉 | 303 | 31.6 |
| 保健・医療 | 313 | 32.6 |
| 地域基盤（道路、上下水道） | 173 | 18.0 |
| 自然等の環境・景観 | 352 | 36.7 |
| 文化・スポーツ | 123 | 12.8 |
| 第一次産業（農林水産業） | 124 | 12.9 |
| 第二次産業（工業等） | 57 | 5.9 |
| 第三次産業（商業・観光・サービス業等） | 381 | 39.7 |
| 広域連携・住民と行政の協働 | 160 | 16.7 |
| 環境保全 | 127 | 13.2 |
| その他 | 19 | 2.0 |
| 無回答 | 11 | 1.1 |
| 回答者総数（%ベース） | 959 | 100 |

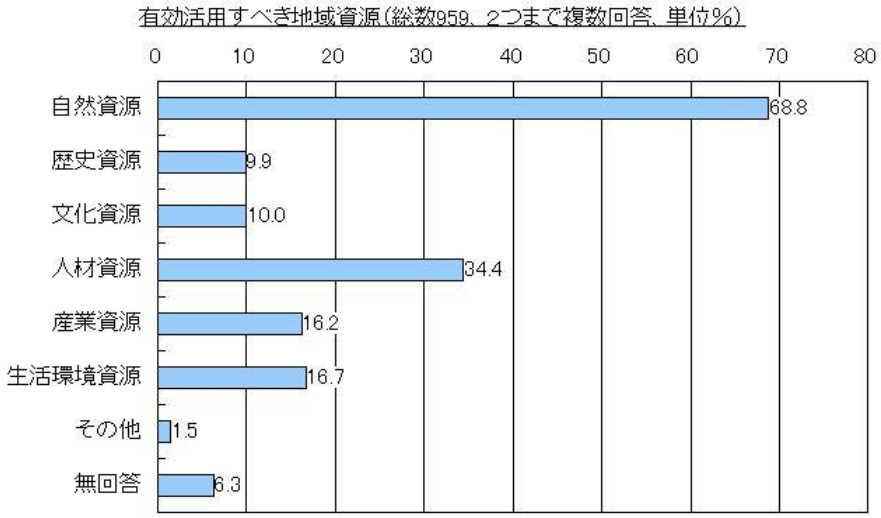



**○第三次産業（商業・観光・サービス業等）の振興**

「第三次産業」が39.7%（381人）と最も多く、次いで、「自然等の環境・景観」36.7%（352人）、以下、僅差で「保健・医療」「高齢者・障がい者等の福祉」「子育て支援」が続いています。

**・白馬村ならではの地域づくりを進めていくため、有効活用すべき地域資源、埋もれている要素などはありますか？（該当するもの2つまで）**

| | 回答数 | 割合（%） |
|---|---|---|
| 自然資源 | 660 | 68.8 |
| 歴史資源 | 95 | 9.9 |
| 文化資源 | 96 | 10.0 |
| 人材資源 | 330 | 34.4 |
| 産業資源 | 155 | 16.2 |
| 生活環境資源 | 160 | 16.7 |
| その他 | 14 | 1.5 |
| 無回答 | 60 | 6.3 |
| 回答者総数（%ベース） | 959 | 100 |

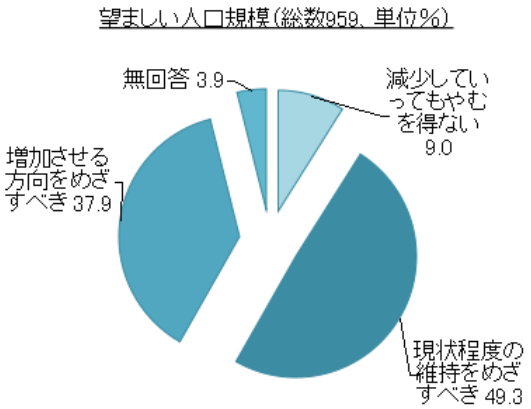



**〇圧倒的に自然資源**

「自然資源」が68.8%（660人）と圧倒的に高く、次いで「人材資源」34.4%（330人）などとなっています。

**・あなたは、白馬村の人口規模が将来、どのようになるのが望ましいと思いますか？（該当するもの1つ）**

| | 回答数 | 割合（%） |
|---|---|---|
| 減少していってもやむを得ない | 86 | 9.0 |
| 現状程度の維持をめざすべき | 473 | 49.3 |
| 増加させる方向をめざすべき | 363 | 37.9 |
| 無回答 | 37 | 3.9 |
| 回答者総数（%ベース） | 959 | 100 |




**〇約半数が現状維持**

「現状程度の維持をめざすべき」が49.3%（473人）と約半数、次いで、「増加させる方向をめざすべき」37.9%（363人）となっています。

## 【記述回答】

各設問「その他」の記述内容抜粋

●問11　あなたが望む将来の白馬村は、どのような村ですか？

観光立村/自由と活力があり、若者にとって魅力ある村/年間を通して安定した観光客の集客/白馬の自然を活かす地域作り/増加している外国人（住民として）も参加してもらう村づくりが重要/白馬村で育った子供達が成長した時、仕事や働く場があり、安心して生活していける環境が必要/観光地としての自覚、各地区、同業者同士の連携、まとまりが必要/よそ者、旅の衆、地元等、差別のない村/のどかなのんびりとした村/白馬村として出来る、一つ以上の産業のある充実出来る村。/村税滞納者のいない村/スキー産業に力を入れ、国内外の観光客を受け入れる村/若い人が定住できるような、安定した職の提供/学力の高い競争力を持つ人材を保有できる村/軽井沢ＩＳＡＫの様なインターナショナルスクールと、観光以外の雇用の充実が必要

●問19　全国的に少子化が問題となっていますが、少子化対策として最も有効と思われるものは何ですか？

自覚の出来る「親」の育成/安定した職場確保/高齢者のボランティア利用/カップル出会い、成立の場の提供、催し/子育て世代や若者の経済的基盤の確立が必要/若者が働く場所がある事/産業を育て、働く場の確保による若者増をはかる事/未婚者を減らす/若いカップルの定住を促す取り組み/義務教育後の経済支援/親の介護の軽減/税金など負担減/父親の仕事の充実/社会に通用する能力を身につけられる学校教育/若者の流入施策/積極的な児童支援/子供を育てやすい環境、施設作り（公園、インターナショナルスクール）

●問22　これからの時代、地域自らが、地域の将来を考え、実行していくことの重要性が高まっています。まちづくりにはさまざまな分野がありますが、あなたは、白馬村が今後、より一層活性化し、いきいきとしていくためには、どんな分野に力を入れていくことが必要だと思いますか？

若年層定住の為の、住宅、雇用対策/手を加えすぎない事（不便さがあっても良い）/今の学生が白馬で働きたいと思う事。若い人の参加が大切/観光産業/第６次産業の発想、工夫/仕事（若い人が働ける）の確保/高速道等インフラ整備/里山の景観保全と観光業をセットでの推進/若者が定住できるよう、就労場所、全宅地の整備/「人」を作らなければ…知恵のないものが集まって考えても何も変わらない/その気にさせる手段が必要/意識改革/外国人観光客の取り組みについて

## （２）目指すべき将来の方向

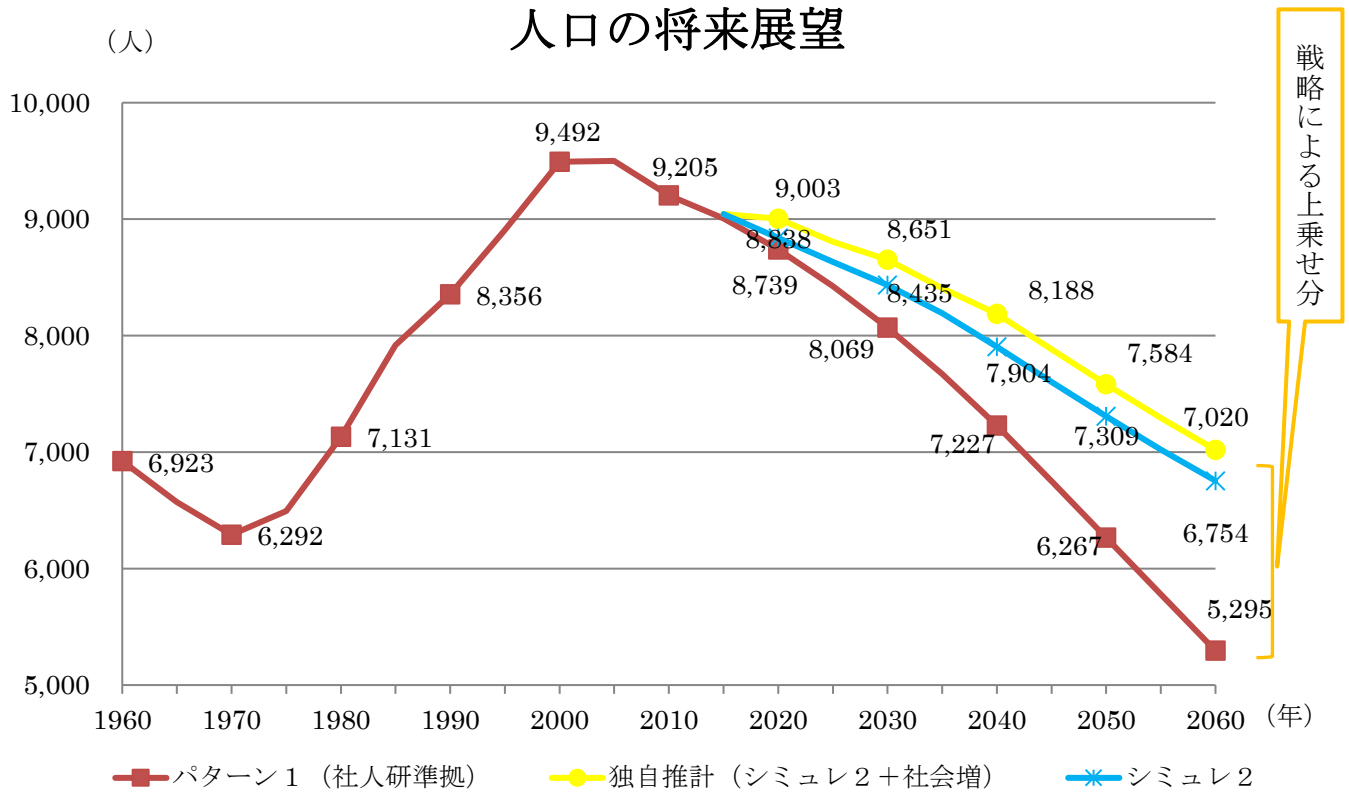
「人口増加を目指す」

将来の人口減少を避けて通ることは出来ず、今、行動を起こさなければ白馬村はやがて活力を失うことになります。危機感を村民全体で共有し行動することによって、将来にわたってコミュニティとしての白馬村を存続させていくために、あらゆる施策を展開して人口の増加を目指す方向で人口減少に歯止めをかけます。

## （３）人口の将来展望

「生産年齢人口層を厚くする」

社会に活力をもたらすためには生産年齢人口層の厚みが必要と考えています。移住希望者に対する白馬村が持つ魅力はかなり高いものがあり、若者にターゲットを絞った移住・定住につながる施策を積極的に展開することにより、将来的に生産年齢人口層を厚くすることを目指すものとします。




独自推計
合計特殊出生率
　2025 年 1.84（県民希望出生率）、2035 年 2.07（人口置換水準）
社会増（社会動態）
　64 歳以下の年齢階級ごとの社会増
　2020 年 10 人増、2030 年 15 人増、2040 年 20 人増

## 第２　総合戦略

### １　基本的な考え方

#### （１）総合戦略策定の目的

わが国では、平成２０年をピークに人口減少が続いており、厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所における平成２４年の将来推計人口では、平成７２（２０６０）年の人口は8，６７４万人、６５歳以上の人口割合は３９．９％とされています。

本村では、現在の人口約９，０００人が平成５２（２０４０）年には約7，２００人まで減少する見込みであると同時に、日本創生会議が平成２６年５月に発表した提言では「消滅可能性都市」に該当しており、人口の減少が経済活動の縮小やコミュニティ機能の低下など、住民生活の様々な分野に大きな影響を及ぼすものと懸念されているところです。

こうした状況の中、国においては、人口減少時代の到来、東京への一極集中という課題に対応していくため、まち・ひと・しごと創生本部を設置し、地方創生によりこれらの課題を克服しながら、活力ある日本社会の維持、地方から日本の創生を目指すこととしました。

本村においても今後の人口減少に対応するとともに、住み良い環境を確保し、将来にわたって活力あるまちを維持するため、本村の実情を踏まえ「白馬村総合戦略」を策定します。

#### （２）総合戦略の位置づけ

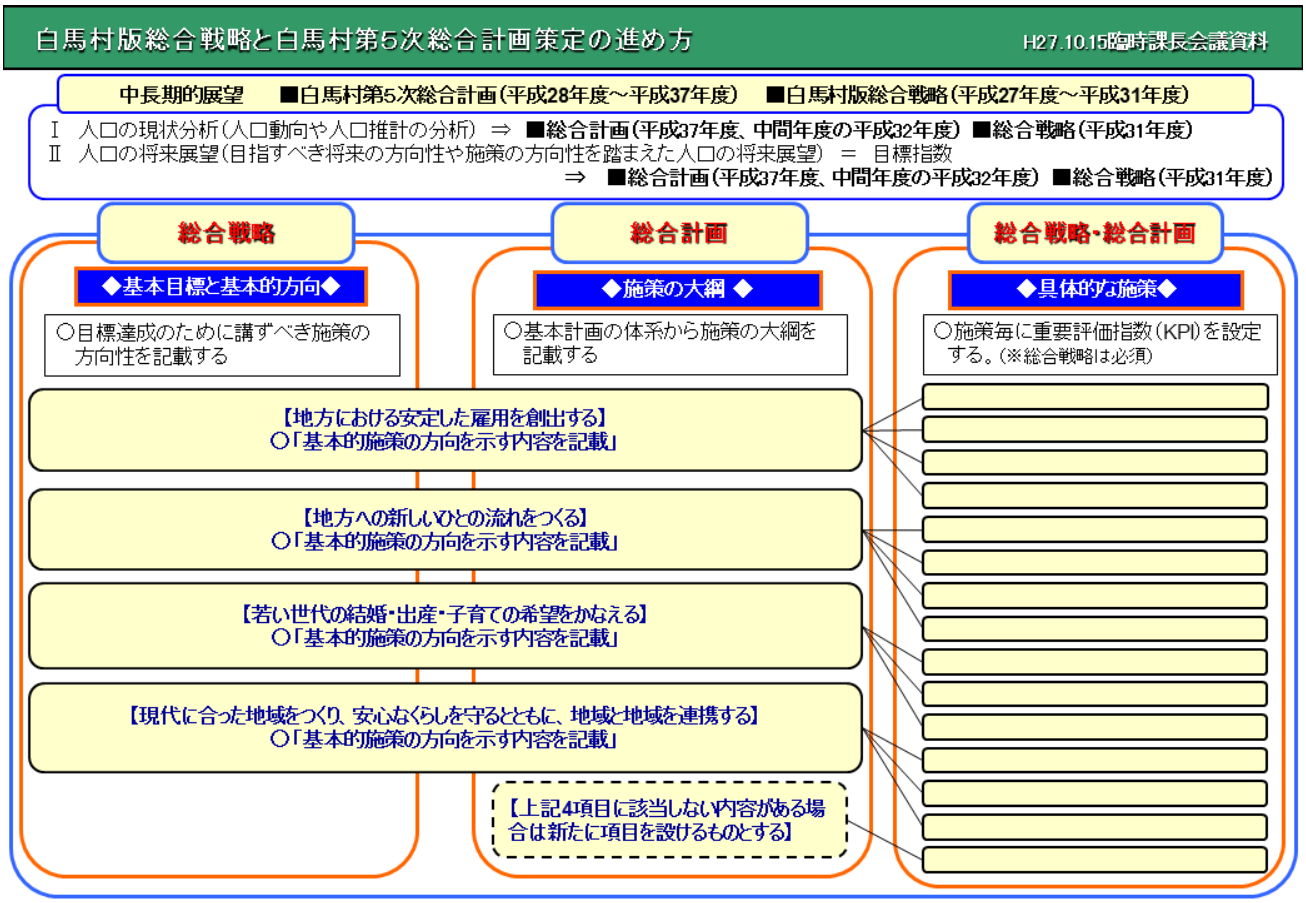
本村の総合戦略は、白馬村人口ビジョンを踏まえ、「まち・ひと・しごと創生」に関する分野における目標や基本的方向、具体的施策などを定めるものです。

#### （３）計画期間

総合戦略の計画期間は、平成２７年度から平成３２年度までの６年間とします。

#### （４）総合計画と総合戦略の関係

総合計画は、本村の最上位計画として、あらゆる政策分野における行政運営の基本理念や基本目標を定めるとともに、その実現に向けた基本的な施策の方向性を定めるもので、総合戦略の策定にあたっては、総合計画と総合戦略との整合を図り、総合計画と総合戦略を連動させながら「まち・ひと・しごと創生」に向けて効果的かつ効率的な取り組みを行います。




（５）計画期間の目標人口　　９，０００人（目標Ｈ３２）

（6）PDCA サイクルの確立

「まち・ひと・しごと創生」を実現するためには、PDCA サイクルを確立することが必要不可欠であり、重要業績評価指標（KPI）の設定により、効果の客観的検証を行い、必要に応じ見直しを図ります。

２　基本方針

地域戦略とは、「ひと」が中心であり、長期的には、地方で「ひと」をつくり、その「ひと」が「しごと」をつくり、「まち」をつくるという流れを確かなものにしていく必要があります。現在の課題の解決に当たって重要なのが地方創生を活用し、人口減少へとつながる負のスパイラルに歯止めをかけ、好循環を確立する取り組みであり、そのためには「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼びこむことで、新しい人の流れを生み出し、「まち」に活力を取り戻し、人々が安心して生活を営み、子どもを産み育てる社会環境を整えることが急務となっています。

本村でも、人口の社会増・自然増対策にあらゆる分野において取り組み、まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立により、人口減少の克服と地方創生を推進します。

３　基本目標

**基本目標１　地域の資源と人を活かした「しごと」を創出する**

国：地域における安定した雇用を創出する

県：地域の資源・人材を活かした産業構造を構築することにより、仕事と収入を確保します

〈基本的方向〉

地域経済の活性化を図り、豊かな生活を実感できる活力ある村づくりのため、地域資源の特徴を活かし、年間を通した安定的な雇用の場と雇用機会を創出します。　（観光課）

| 数値目標 | 基準値（H26） | 目標値（H３２） |
|---|---|---|
| 新規正規雇用者数 | 30 人※ | 50 人 |

※基準値については聞き取りによる独自推計。

**基本目標２　白馬村への新しい「ひと」の流れをつくる**

国：地域へ新しい人の流れをつくる

県：人生を楽しみながら多様な人材が互いに高めあい、新しい価値を創造できる地域を構築することにより、人口の社会増への転換に向けて、社会減を縮小します

〈基本的方向〉

安定的な雇用の確保や子育て世代への支援など、社会増となる移住者の視点に立った各種施策の展開により、村外からの移住や定住を促進し新しい人の流れをつくります。

（総務課）

| 数値目標 | 基準値（H25） | 目標値（H３２） |
|---|---|---|
| 人口の社会増数（転入者数ー転出者数） | 111 人 | 現状維持 |

**基本目標３　若い世代の結婚・出産・子育ての「きぼう」をかなえる**

国：若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

県：誰もが希望する数の子どもを持ち、安心して子育てをすることができる「みんなで支える子育て安心県」を構築することにより、人口の自然減に歯止めをかけます

〈基本的方向〉

結婚・妊娠・出産・育児をしやすい社会環境整備を推進し、若い世代が出産や子育てに希望を実感できる地域社会の実現を目指します。　（子育て支援課）

| 数値目標 | 基準値（H25） | 目標値（H３２） |
|---|---|---|
| 年間出生数 | 63 人 | 累計 350 人 |

**基本目標４　将来にわたって住み続けたい魅力ある「まち」をつくる**

国：時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する

県：人口減少下でも生活に不可欠なサービスを提供できる地域構造を構築することにより暮らしの安心と地域の活力を確保します

〈基本的方向〉

誰もが住みたい、住み続けたいと感じる、暮らしやすく住みやすい、選ばれるまちを目指した環境整備に取り組みます。　（総務課・建設課）

| 数値目標 | 基準値（H26） | 目標値（H３２） |
|---|---|---|
| 新築住宅戸数 | 28 戸 | 累計 150 戸 |

## ４　施策の展開

| 基本目標１ | 地域の資源と人を活かした「しごと」を創出する |
|---|---|

※基準値の「０」と「―」の違い：「０」は基準となる数値がなく、「―」は基準となる値がないことを示す。

### （１）競争力のある産業の振興と雇用の創出

| 基本施策１ | 白馬産農産物のブランド化 | |
|---|---|---|
| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値（H26） | 目標値（H３２） |
| 白馬産米のブランド化（取組み農家） | ― | 10 人 |
| 紫米の消費量 | ６t | ８t |
| 特産農産物の振興（ブルーベリー、食用ほおずき、陸わさび、（ミニ）トマトなどの栽培面積） | 7ha | 10ha |
| 具体的な施策・主な取組み | | |
| 白馬産農産品のブランド化を図り、付加価値を高め、農家の所得増を目指すとともに、既存の特産品である紫米の販売強化と新たな特産品となる農産物の生産振興を図り、観光業との連携による、農業の成長産業化を図ります。（農政課） | | |

| 基本施策２ | 新たな創業支援と空き店舗の活用支援 | |
|---|---|---|
| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値（H26） | 目標値（H３２） |
| 空き店舗の斡旋と活用 | ０件 | ５件 |
| 店舗後継者 | ０人 | ３人 |
| 新規創業者数 | ３人 | 累計 10 人 |
| 具体的な施策・主な取組み | | |
| 商工会と連携し、村内での創業を希望する方に総合的な支援を行うことで、新たな雇用の受け皿をつくります。また、商工会・金融機関・不動産業者と連携した空き店舗等の調査・台帳整備を行い、新規創業者への空き店舗の斡旋から店舗後継者の育成へとつながる支援を行います。（観光課） | | |

| 基本施策３ | クリーンエネルギー・自然エネルギーの利活用 | |
|---|---|---|
| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値（H26） | 目標値（H３２） |
| ペレットストーブ購入補助 | ５件 | 累計 30 件 |
| ペレット販売 | 689 袋 | 1,200 袋 |
| 小水力発電量 | ― | 年間 140 万 Kwh |
| 具体的な施策・主な取組み | | |
| ・ペレットストーブ購入助成、流通システムの構築<br>・小水力発電事業の推進と調査研究（農業生産へのエネルギー活用による地域循環経済の活性化）<br>・山小屋への安定した電力供給を確保した快適な滞在空間の提供による山岳観光の充実<br>・地域資源を活かした新たな自然エネルギーの実用化（温泉を活用した野菜栽培や消雪・融雪など）（農政課・総務課） | | |

（２）地域の特色を活かした観光振興の推進

| 基本施策４　グリーンシーズンの観光振興 | | |
|---|---|---|
| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値（H26） | 目標値（Ｈ３２） |
| 観光客入込数（４～11 月） | 113 万人 | 120 万人 |
| 具体的な施策・主な取組み | | |

グリーンシーズンにおいて、様々な観光振興策を展開し、観光客の入込数を増やし通年型観光を推進します。

・白馬大雪渓の観光への活用（白馬駅～大雪渓への道路拡幅と電気自動車乗り入れなど）
・広域圏における魅力あるトレッキングコースの復活（栂池自然園～白馬大雪渓など）
・山岳景観を活かしたサイクリングコースの整備
・自然体験型など魅力あるツアーの構築
・里山の整備等による地域資源を活用した観光の推進

（観光課）

| 基本施策５　道の駅の建設と地域経済循環システムの構築 | | |
|---|---|---|
| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値（H26） | 目標値（Ｈ３２） |
| 道の駅売品収入額 | 249 百万円 | 300 百万円 |
| 具体的な施策・主な取組み | | |

道の駅を建設し、総合観光情報の発信基地として、さらに地元の特産品・農作物・林産物の集中管理機能を持たせた地域循環経済の中心とします。

（総務課・観光課・農政課）

| 基本施策６　観光業の体力強化に向けた計画の推進 | | |
|---|---|---|
| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値（H26） | 目標値（Ｈ３２） |
| 観光客入込数 | 224 万人 | 250 万人 |
| 外国人観光客延宿泊数 | 77,724 泊 | 100,000 泊 |
| 具体的な施策・主な取組み | | |

山岳景観と農村景観の魅力を最大限に発揮し、通年型山岳リゾートとして機能するための基盤整備を進め、多様化する観光客のニーズに応えるため、必要な人材育成と宿泊・飲食業の魅力 UP を図り、国際リゾートにふさわしい受入環境を構築します。

・白馬バレー（大町・白馬・小谷）として、一体性強化のための共通ゲートシステム、シャトルバスの整備
・地元食材と観光施設が経済的・有機的に流通するシステムの構築
・英語による宿泊・レストラン予約サイトの開設とインバウンド受入のためのサポート体制の整備
・案内看板の多言語化・統一化
・冬のタクシー不足解消のためのシェアライディングシステムの導入

（観光課・総務課）

（３）医療従事者の確保と人材育成

| 基本施策７　看護師と介護職員等の安定雇用 | | |
|---|---|---|
| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値（H26） | 目標値（Ｈ３２） |
| 新規就業者 | ０人 | 看護師２人<br>介護職員４人 |
| | | |
| 具体的な施策・主な取組み | | |
| 看護師及び介護職員の資格取得のための支援を行うとともに、資格取得後の就職についても村内施設に優先して就職できる体制を整え、恒常化している村内の看護師及び介護職員不足を解消します。<br>（健康福祉課） | | |

| 基本目標２ | 白馬村への新しい「ひと」の流れをつくる |
|---|---|

※基準値の「０」と「―」の違い：「０」は基準となる数値がなく、「―」は基準となる値がないことを示す。

（１）Ｕ・Ｉ・Ｊターンの促進

| 基本施策１ | 魅力ある白馬への移住・定住支援 | |
|---|---|---|
| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値（H26） | 目標値（Ｈ３２） |
| 移住者数 | ― | 20 名 |
| 地域おこし協力隊員数 | ３人 | 10 人 |
| サテライトオフィスの設置 | ― | １企業 |
| 移住定住フェアの開催 | ０回 | ２回/年 |
| 具体的な施策・主な取組み | | |
| 地域おこし協力隊制度等を活用し、白馬村にある古民家（別荘・宿泊施設）等の登録台帳整備を進め、古民家再生のための改修補助制度の活用による移住を促進し、農業法人等への就職斡旋及び新規起業者への支援を進めます。<br>首都圏及び村内で移住定住フェアを開催して白馬村での住いの体験等を提案するとともに、観光地及び避暑地としての白馬村にサテライトオフィスを誘致し、新しい人の流れを促進します。 | | |

（2）地域資源を活かした教育の推進

| 基本施策２ | 地域高校である白馬高校の魅力化 | |
|---|---|---|
| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値（H26） | 目標値（Ｈ３２） |
| 他県からの入学者数 | ０人 | 15 人 |
| | | |
| | | |
| 具体的な施策・主な取組み | | |
| 平成 28 年度から国際観光科を新設し、全国から生徒を募集する長野県立白馬高等学校の魅力づくりのため、公営塾の運営、寮の運営、ＩＣＴ教育支援、部活動支援、人材育成等の地域支援を進めます。 | | |

| 基本施策３ | 外国人の児童・生徒に対応した教育環境の整備 | |
|---|---|---|
| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値（H26） | 目標値（Ｈ３２） |
| 外国人住民登録者数 | 177 人 | 240 人 |
| | | |
| | | |
| 具体的な施策・主な取組み | | |
| 外国人世帯の子どもたちが、国籍にかかわらず安心して教育を受けられるよう、支援員等を配置するなど、外国人の流入を増やすための環境整備により定住化を図ります。 | | |

| 基本施策４ | 都市部からの児童・生徒の受け入れ | |
|---|---|---|
| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値（H26） | 目標値（H３２） |
| 受入留学生数 | ０人 | ５人 |
| | | |
| | | |

具体的な施策・主な取組み

都市部の児童・生徒が豊かな自然環境に恵まれた白馬村での生活体験ができる体制を整え、多くの児童・生徒を呼び込み、生活体験を通して地域の魅力や歴史、文化などに触れることで、将来の移住・定住につなげます。

| 基本目標３ | 若い世代の結婚・出産・子育ての「きぼう」をかなえる |
|---|---|

※基準値の「０」と「―」の違い：「０」は基準となる数値がなく、「―」は基準となる値がないことを示す。

（１）結婚・出産・子育てへの切れ目のない支援体制

| 基本施策１ | 安心・安全な妊娠・出産への支援 | |
|---|---|---|
| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値（H26） | 目標値（H３２） |
| 合計特殊出生率 | 1.19 | 1.30 |
| 妊婦基本健診受診率 | 97.1% | 100% |
| 新生児訪問件数 | 74.6% | 100% |

具体的な施策・主な取組み

妊娠・出産・育児の不安や経済的負担の軽減に取り組み、安心して子どもを産み、育てられるよう支援します。

◇妊娠・出産に対する経済的支援

妊婦・乳児一般健康診査の補助券発行、不妊治療費助成、出産祝金

◇相談や学習等を通した母子の健康支援

母子健康手帳の交付・相談、マタニティ教室、ハイリスク妊婦の相談、新生児訪問

◇安心して産み育てることができる医療体制の維持・充実

大北圏域の出産環境の維持・充実に向けた連携、平日夜間小児科・内科急病センターの医療体制の維持

| 基本施策２ | 子育てへの安心サポート | |
|---|---|---|
| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値（H26） | 目標値（H３２） |
| 休日保育の利用者数 | 213 人 | 250 人 |
| 放課後児童クラブの利用者数 | 351 人 | 470 人 |
| 子育て相談支援センター個別相談件数 | 44 件 | 60 件 |

具体的な施策・主な取組み

地域社会のつながりの中で、子どもが健やかに成長できるよう教育・保育の提供と相談体制の充実を図ります。また、子育て家族の経済的軽減を図ります。

◇子育てと仕事の両立支援

保育のニーズに対応した保育園の運営、一時保育・休日保育事業の充実、子育て支援ルームの充実、白馬幼稚園との連携、放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）

◇子育て相談支援

子育て支援ルームにおける育児相談、講座の開催、子育て相談支援センターにおける療育相談の充実、各種乳児健診の実施と相談

◇経済的支援

多子世帯保育料の減免、児童手当・児童扶養手当の給付、インフルエンザワクチン助成、福祉医療費の給付

| 基本施策３　結婚サポート事業 | | |
|---|---|---|
| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値（H26） | 目標値（H３２） |
| 婚姻数 | 41 件 | 累計 270 件 |
| | | |
| | | |
| 具体的な施策・主な取組み | | |
| 若い世代の結婚の希望をかなえるため、県の「しあわせ信州結婚支援センター（仮称）」や婚活サポーターと連携し、出会いの機会の拡大や情報提供などのサポート体制の充実に取り組みます。 | | |

（２）特色ある学校教育の充実

| 基本施策４　ICT を活用した教育の推進 | | |
|---|---|---|
| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値（H26） | 目標値（H３２） |
| 中学校タブレット活用授業の実施 | ０人 | 延生徒数 900 人 |
| 小学校タブレット活用授業の実施 | ０人 | 延児童数 690 人 |
| | | |
| 具体的な施策・主な取組み | | |
| ＩＣＴ教育の環境を整え、タブレットや電子黒板等の周辺機器を活用した、効果的で分かりやすい授業を展開し、教育の質の向上を図ることにより生徒の学力向上と活力にあふれた魅力ある学校を目指し、高度情報化・グローバル社会に対応した教育を推進します。 | | |

| 基本目標４ | 将来にわたって住み続けたい魅力ある「まち」をつくる |
|---|---|

（１）安全・安心な暮らしの確立

| 基本施策１ | 地域包括ケアシステムの構築 | |
|---|---|---|
| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値（H26） | 目標値（H３２） |
| 介護予防取り組みグループ数 | 19 | 24 |
| 災害時支え合いマップ作成地区 | 17 | 全地区（30） |
| | | |

具体的な施策・主な取組み

住み慣れた地域で継続して生活していくため、住民同士が支え合う地域力を高め、在宅生活の支援を図ります。

◇在宅生活支援

介護予防事業の推進、介護保険サービスの推進、在宅医療の推進

◇地域支え合い支援

災害時支え合いマップ作成の推進、地区サロン等地域活動の推進

| 基本施策２ | 健康づくり支援 | |
|---|---|---|
| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値（H２６） | 目標値（H３２） |
| 特定健診受診率 | 47.1% | 60.0% |
| 特定保健指導率 | 73.3% | 75.0% |
| 食育ボランティア登録者数 | 20 人 | 30 人 |

具体的な施策・主な取組み

元気で安心して生活していくためには、健康であることが大変重要です。健康診査や保健指導等により健康づくりを推進します。

・特定健康診査及び特定保健指導による生活習慣の改善
・生活習慣病予防健診、人間ドック等による健康管理支援
・生活習慣病予防に関する情報提供、啓発活動等の実施
・保健補導員や地域団体等による地域健康・体力づくり活動の推進
・データヘルス(国保)による地域の健康課題の分析と対応
・インフルエンザ等の感染症予防対策
・ボランティア団体等による地域食材の普及活動や食文化の伝承活動の推進

| 基本施策３ | 小集落への集落支援員の配置 | |
|---|---|---|
| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値（H26） | 目標値（H３２） |
| 集落支援員配置 | ０人 | 各２名 |
| | | |
| | | |

具体的な施策・主な取組み

小集落への集落支援員配置による支援活動（農業支援・移動支援・除雪支援・祭り支援・若者の既存集落への定住促進）等により地域の活性化を図ります。

| 基本施策４ | 安心な生活を守る買い物支援 | |
|---|---|---|
| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値（H26） | 目標値（H３２） |
| 支援車両の運行 | ０台 | １台 |
| | | |
| | | |

具体的な施策・主な取組み

関係機関との連携により、高齢者の安否確認を兼ねた巡回訪問販売等による支援を行い、安心な暮らしを守るとともに地域経済の活性化を図ります。

| 基本施策５ | 汎用防災アプリケーションのシステム構築による防災対策 | |
|---|---|---|
| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値（H26） | 目標値（H３２） |
| アプリダウンロード数 | ０件 | 累計 3,000 件 |
| | | |
| | | |

具体的な施策・主な取組み

避難施設や避難経路、地震等災害状況伝達、道路状況等、災害発生に係る情報と避難に係る情報を多言語対応の汎用防災アプリにより、住民だけでなく、来訪者、外国人に伝達するシステムを構築します。

（２）広域連携の推進

| 基本施策６　図書館建設による情報発信と広域連携 | | |
|---|---|---|
| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値（H26） | 目標値（H３２） |
| 図書館来場者数 | 12,809 人 | 16,000 人 |
| | | |
| | | |
| 具体的な施策・主な取組み | | |
| 情報受発信機能を充実させた魅力ある図書館を建設し、広域的な情報（文化・芸術）を受発信するなど訪れる人を引き付ける魅力的な空間を提供します。 | | |

| 基本施策７　ごみ処理の広域化とごみの減量化 | | |
|---|---|---|
| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値（H26） | 目標値（H３２） |
| 焼却ごみの削減 | 3,135ｔ/年 | 2,900ｔ/年 |
| リサイクル率 | 21.0% | 30.0% |
| | | |
| 具体的な施策・主な取組み | | |
| ・北アルプス広域連合によるごみ処理広域化の推進<br>・生ごみ資源化促進による総量削減<br>・新リサイクルセンター建設の推進と分別徹底によるごみの資源化促進 | | |

| 基本施策８　新たな広域連携による地域力の向上と経済・生活圏の形成 | | |
|---|---|---|
| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値（H２７） | 目標値（H３２） |
| 新たな広域連携で取り組む事業分野 | ０分野 | ８分野 |
| | | |
| | | |
| 具体的な施策・主な取組み | | |
| 地方創生を実現するためには、村の取り組みに加え、大北地域全体で地域力を向上させ、活力ある経済・生活圏を構築するという広域的観点に立って課題を解決する必要があります。現在、大北圏域は国が推進する定住自立圏や連携中枢都市圏などの要件に該当しない制度空白地域であることから、従来からの北アルプス広域連合の枠組みに加え、大北圏域独自の新たな広域連携のスキームを構築し、個々の資源を活かしながら連携した取り組みを推進します。<br>【主な事業分野】<br>・若者交流、結婚・子育て支援<br>・移住交流、広域観光<br>・成年後見支援センター等<br>・地域医療<br>・人材育成、共同調査研究 | | |